

令和 7 年度
男女共同参画に関する WEB アンケート
調査報告書（案）

令和 8 年 3 月
伊達市

目 次

I 調査の概要	2
II 調査結果	3
III 結果の考察	32
IV 各設問の自由回答記述内容	33

【本書の利用にあたって】

- 本文及び図表中の回答者の比率は、百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入しており、個々の比率の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の質問では比率の合計が100%を超える。
- 図表中の「n」は回答者総数（該当者だけが回答する質問の場合は該当者数）のことで、100%が何人に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 本市において行った男女共同参画市民アンケート調査（令和3年度）及び男女共同参画に関するWEBアンケート（令和6年度）との比較を行った。なお、比較した調査結果は次のとおりである。

【令和3年】令和3年8月実施、調査対象：18歳以上の男女各500人

調査方法：郵送及びインターネットによる自記式調査

【令和6年】令和6年9月実施、調査対象：18歳以上の市民

調査方法：インターネットによる自記式調査

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、男女共同参画に関する市民の意識や実態を把握することで、「第3次伊達市男女共同参画プラン」の推進状況の確認及び本市の男女共同参画推進の施策展開に反映させることを目的に調査を実施した。

2 調査対象及び方法

- ・対 象 市内在住の18歳以上の市民
- ・調査方法 インターネットによる
(市政だより、市のHP、SNSでの周知、市施設へのチラシの設置等による周知を実施)

3 調査期間

令和7年9月25日(木)から令和7年10月31日(金)

4 回答状況

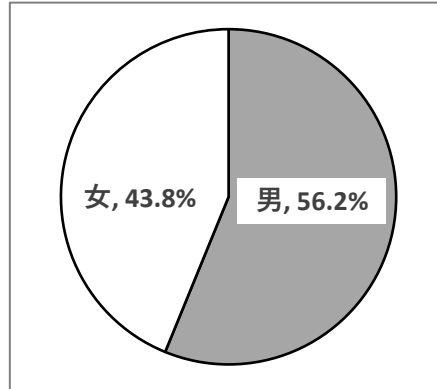
89人(男性50人、女性39人、その他0人)

Ⅱ 調査結果

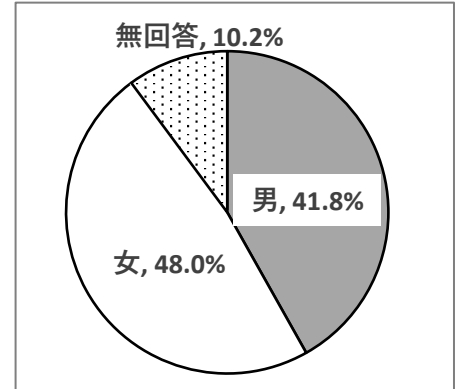
問1. 次の項目について、あなたにあてはまるものを選んでください。

【性別】

	回答数	割合
男	50	56.2%
女	39	43.8%
その他	0	0.0%
計	89	100.0%

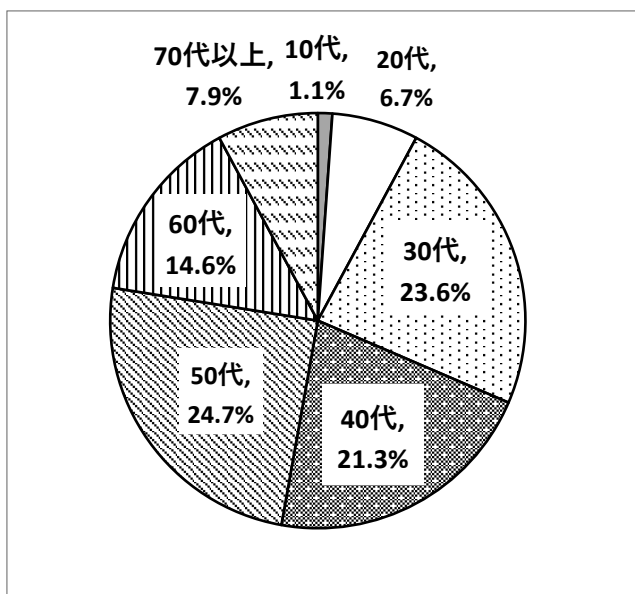


<参考: R3 市民アンケート>

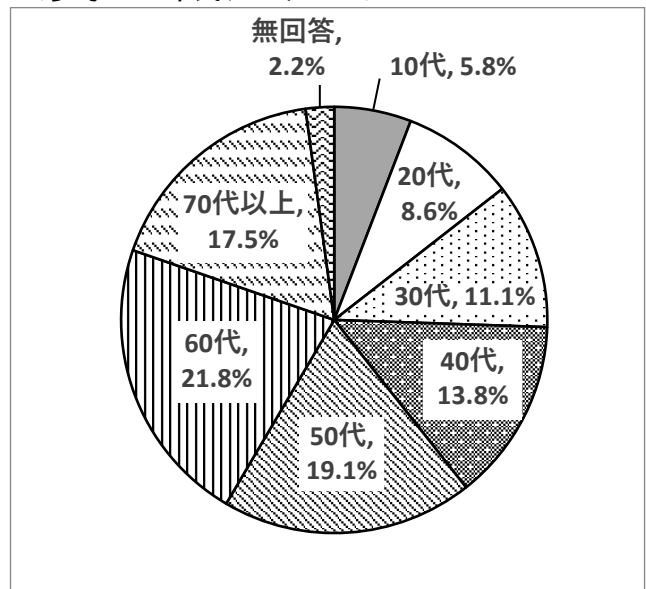


【年齢】

	回答数	割合
10代	1	1.1%
20代	6	6.7%
30代	21	23.6%
40代	19	21.3%
50代	22	24.7%
60代	13	14.6%
70代以上	7	7.9%
計	89	100.0%

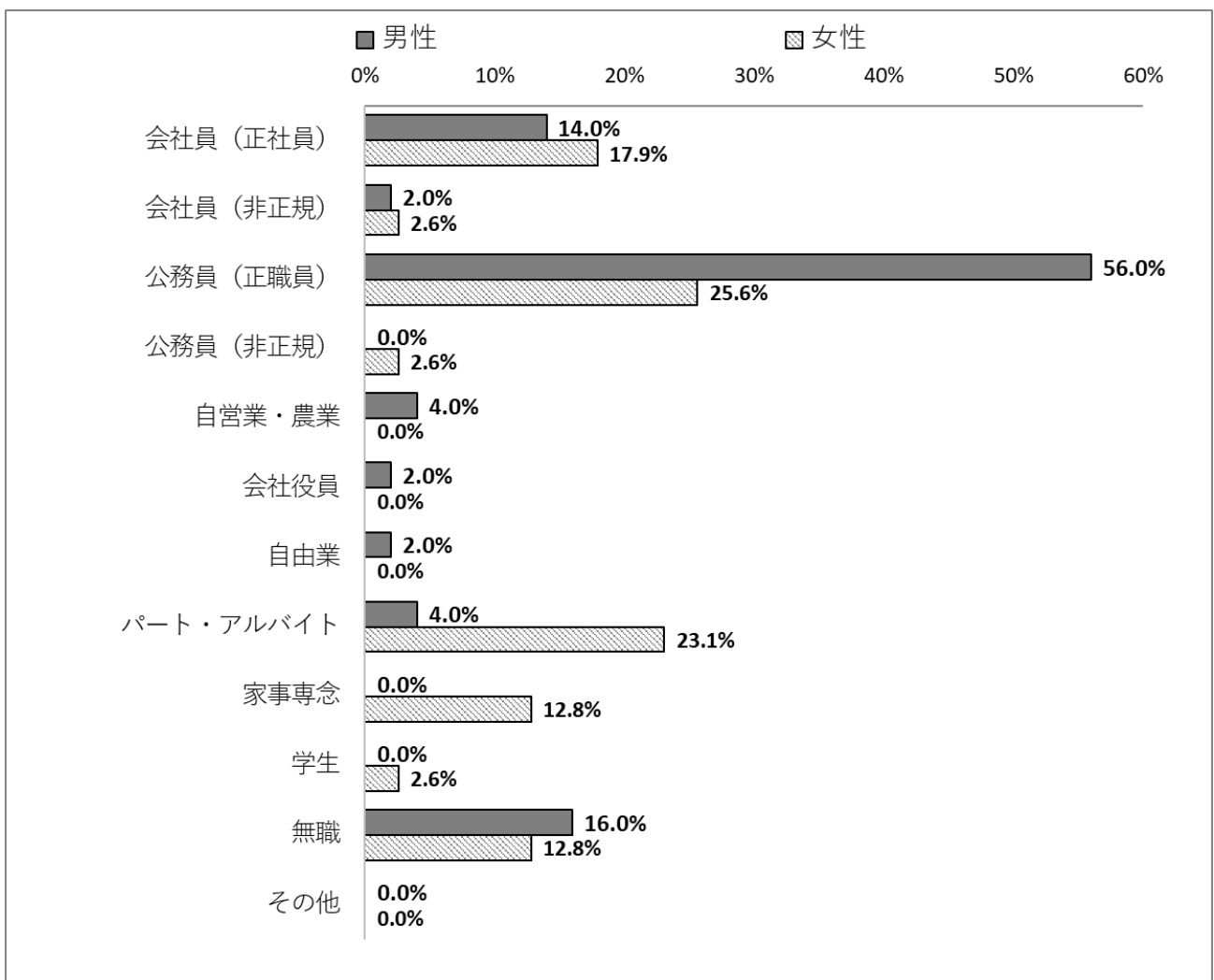
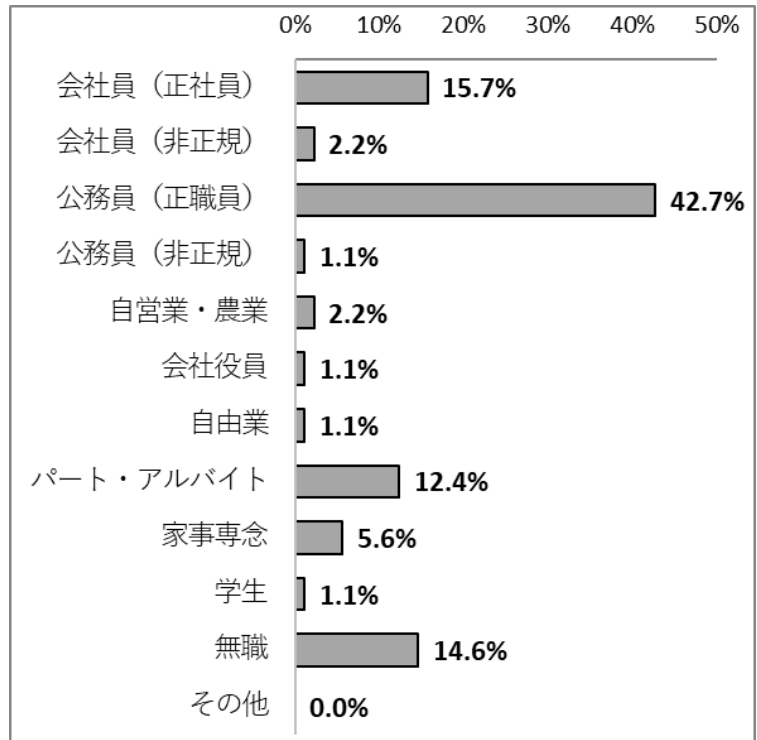


<参考: R3 市民アンケート>



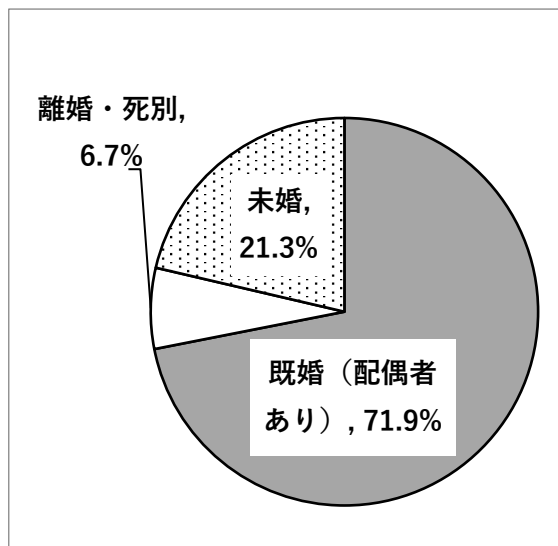
【職業】

	回答数	割合
会社員（正社員）	14	15.7%
会社員（非正規）	2	2.2%
公務員（正職員）	38	42.7%
公務員（非正規）	1	1.1%
自営業・農業	2	2.2%
会社役員	1	1.1%
自由業	1	1.1%
パート・アルバイト	11	12.4%
家事専念	5	5.6%
学生	1	1.1%
無職	13	14.6%
その他	0	0.0%
計	89	100.0%



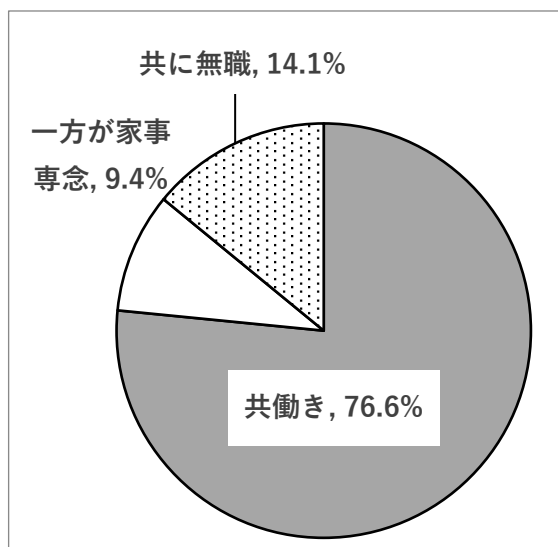
【婚姻の状況】

	回答数	割合
既婚（配偶者あり）	64	71.9%
離婚・死別	6	6.7%
未婚	19	21.3%
計	89	100.0%



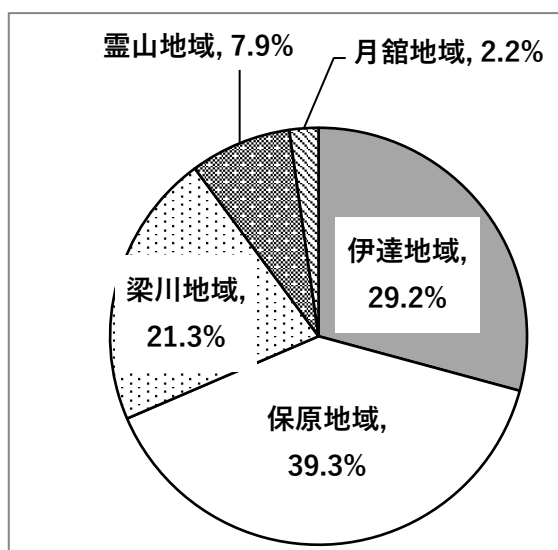
【共働きの状況】

	回答数	割合
共働き	49	76.6%
一方が家事専念	6	9.4%
共に無職	9	14.1%
計	64	100.0%



【現在の居住地】

	回答数	割合
伊達地域	26	29.2%
保原地域	35	39.3%
梁川地域	19	21.3%
霊山地域	7	7.9%
月舘地域	2	2.2%
計	89	100.0%

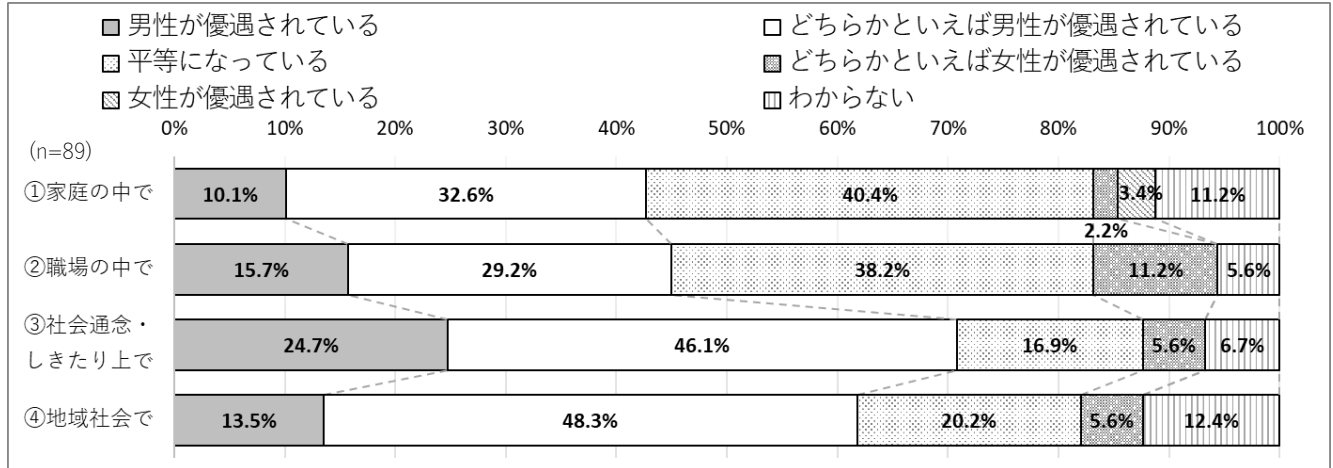


問2. 次の各分野で男女が平等になっていると思いますか。
 それぞれの項目で1～6の中から1つだけ選んでください。

【全体】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合は、〈③社会通念・しきたり上で〉が70.8%と最も高く、次いで〈④地域社会で〉が61.8%となっている。

一方、“平等になっている”の回答は、〈①家庭の中で〉が40.4%と最も高く、次いで〈②職場の中で〉が38.2%となっている。



＜問2-① 家庭の中で＞ [成果指標No. 1]

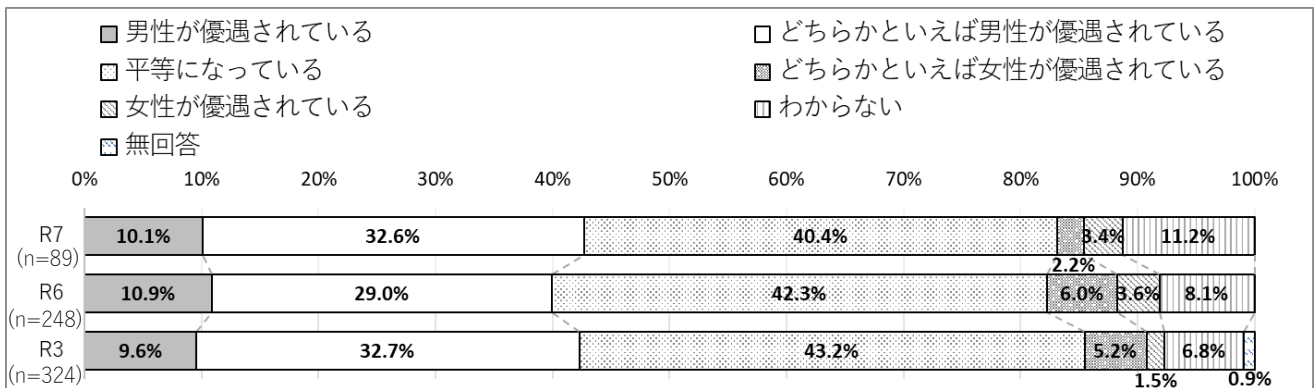
【全体】

“平等になっている”と回答した割合が40.4%と最も高く、次いで“どちらかといえば男性が優遇されている”が32.6%、“わからない”が11.2%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が、令和6年、令和3年とそれぞれ比較すると増加している。(R7：42.7%、R6：39.9%、R3：42.3%)

“平等になっている”と回答した割合が減少している。(R7：40.4%、R6：42.3%、R3：43.2%)

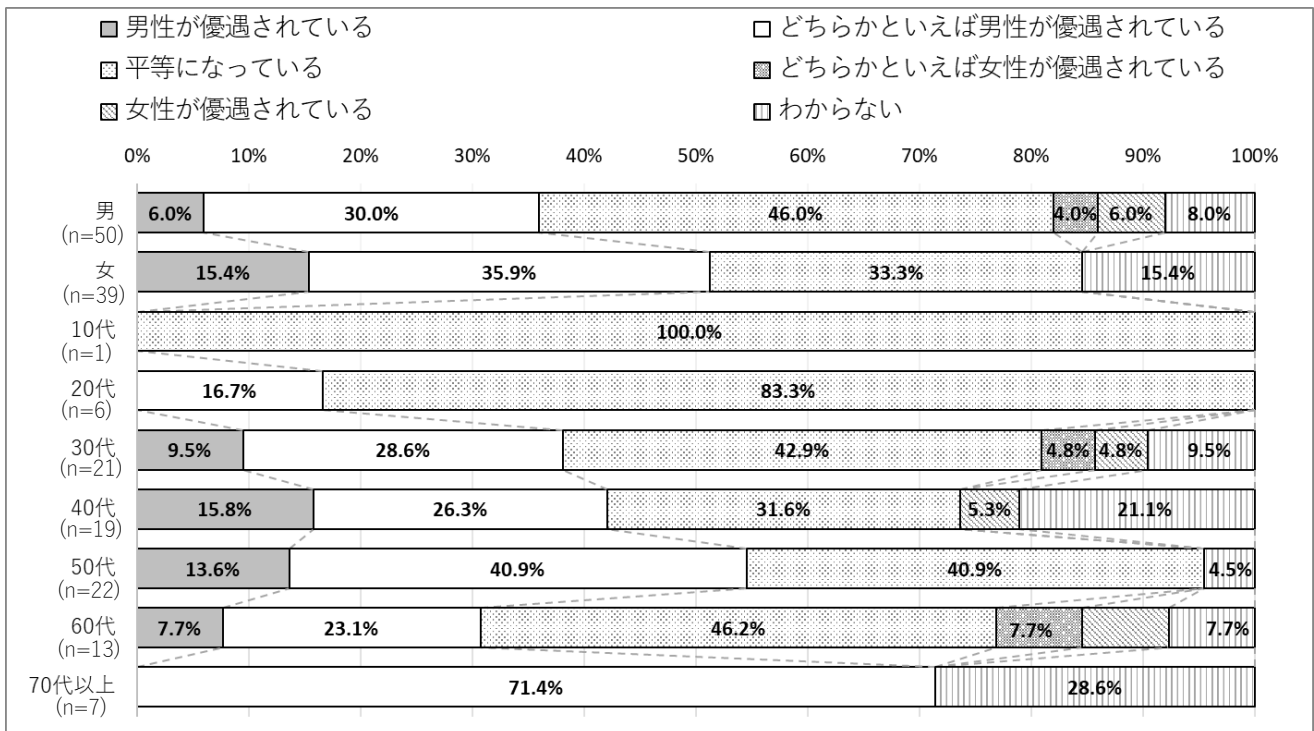


【男女別】

4割以上の男性が“平等になっている”と回答しているが、女性は約3割となっている。

【年代別】

“平等になっている”と回答した割合が30代以上は5割以下となっており、70代以上では0%となっている。



<問2-② 職場の中で> [成果指標No. 2]

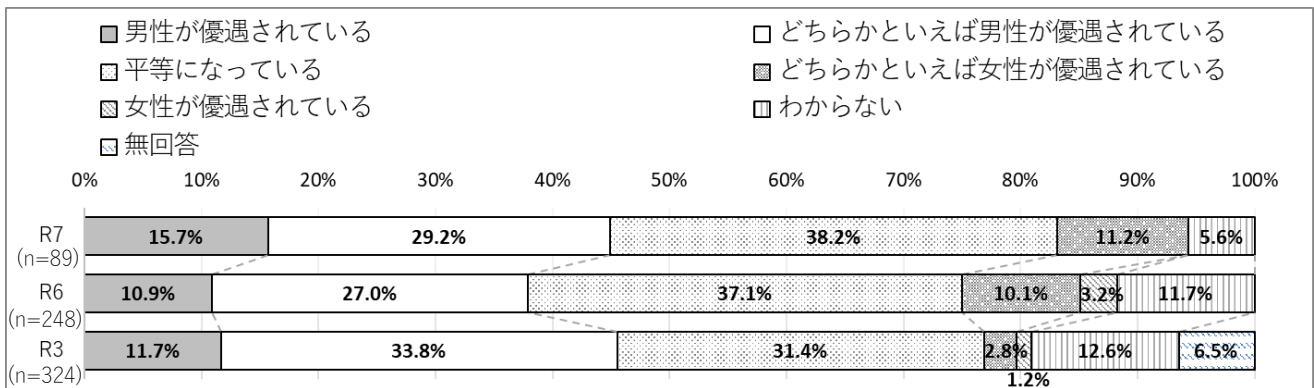
【全体】

“平等になっている”と回答した割合が38.2%と最も高く、次いで“どちらかといえば男性が優遇されている”が29.2%、“男性が優遇されている”が15.7%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が令和6年、令和3年とそれぞれ比較すると減少している。(R7: 44.9%、R6: 37.9%、R3: 45.5%)

“平等になっている”と回答した割合が増加している。(R7: 38.2%、R6: 37.1%、R3: 31.4%)

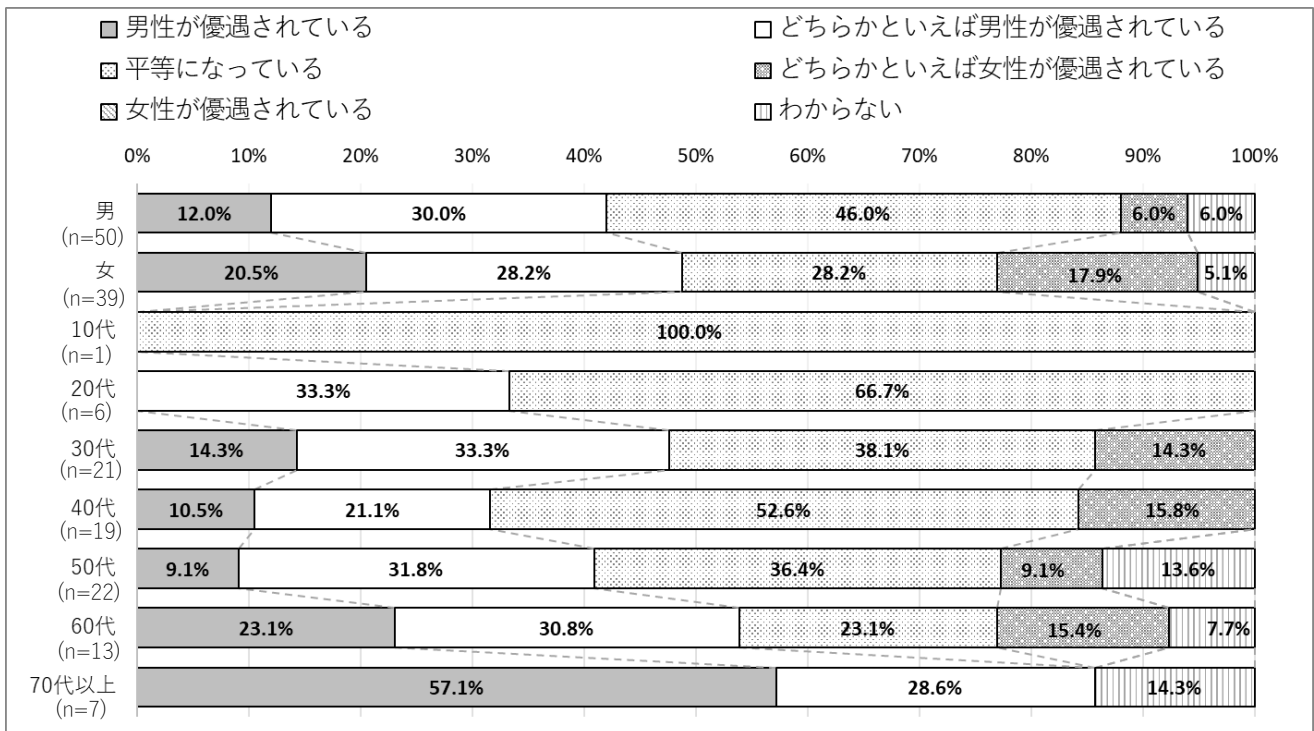


【男女別】

“平等になっている”と回答した割合は、女性より男性の方が高い。

【年代別】

“男性が優遇されている”と回答した割合が10代、20代では0%となっているが、70代以上は5割以上となっている。



＜問2-③ 社会通念・しきたり上で＞ [成果指標No. 4]

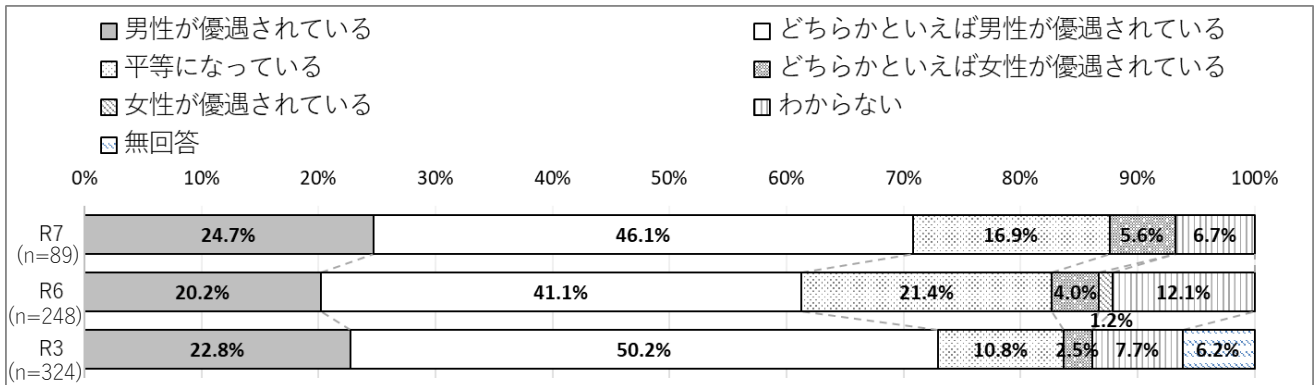
【全体】

“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が46.1%と最も高く、次いで“男性が優遇されている”が24.7%、“平等になっている”が16.9%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が令和6年、令和3年とそれぞれ比較すると減少している。(R7：70.8%、R6：61.3%、R3：73.0%)

“平等になっている”と回答した割合が令和6年、令和3年とそれぞれ比較すると増加している。(R7：16.9%、R6：21.4%、R3：10.8%)

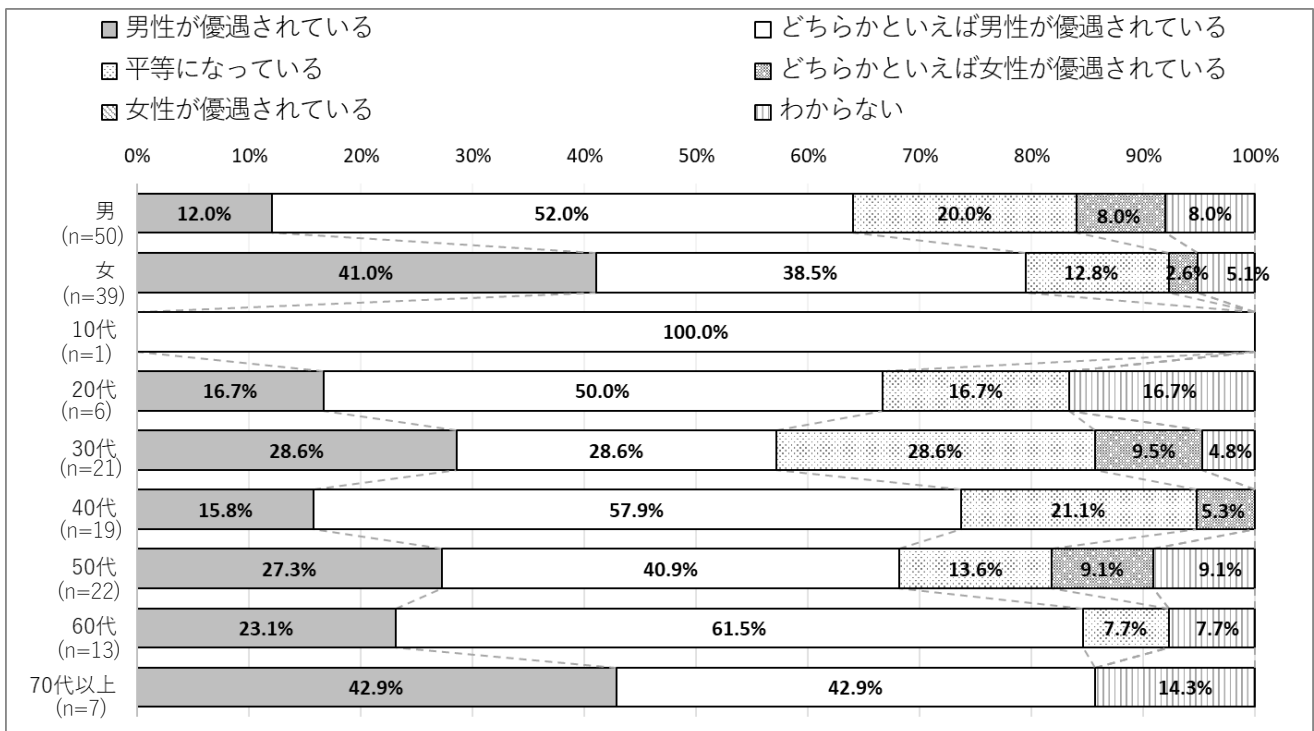


【男女別】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が男女ともに6割を超えており、男性より女性の方が多い。

【年代別】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合がすべての年代で5割を超えている。



<問2-④ 地域社会で> [成果指標No. 3]

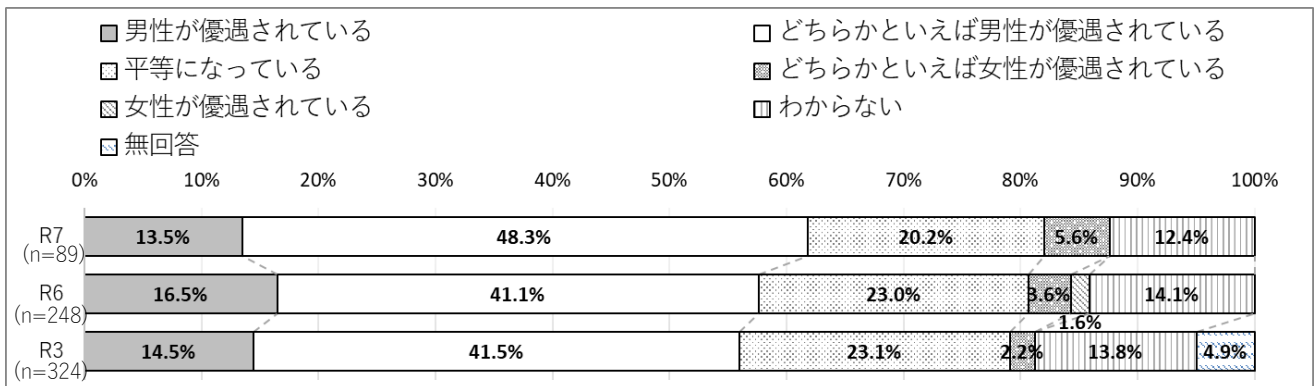
【全体】

“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が48.3%と最も高く、次いで“平等になっている”が20.2%、“男性が優遇されている”が13.5%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が増加している (R7 : 61.8%、R6 : 57.6%、R3 : 56.0%)

“平等になっている”と回答した割合が減少している。(R7 : 20.2%、R6 : 23.0%、R3 : 23.1%)

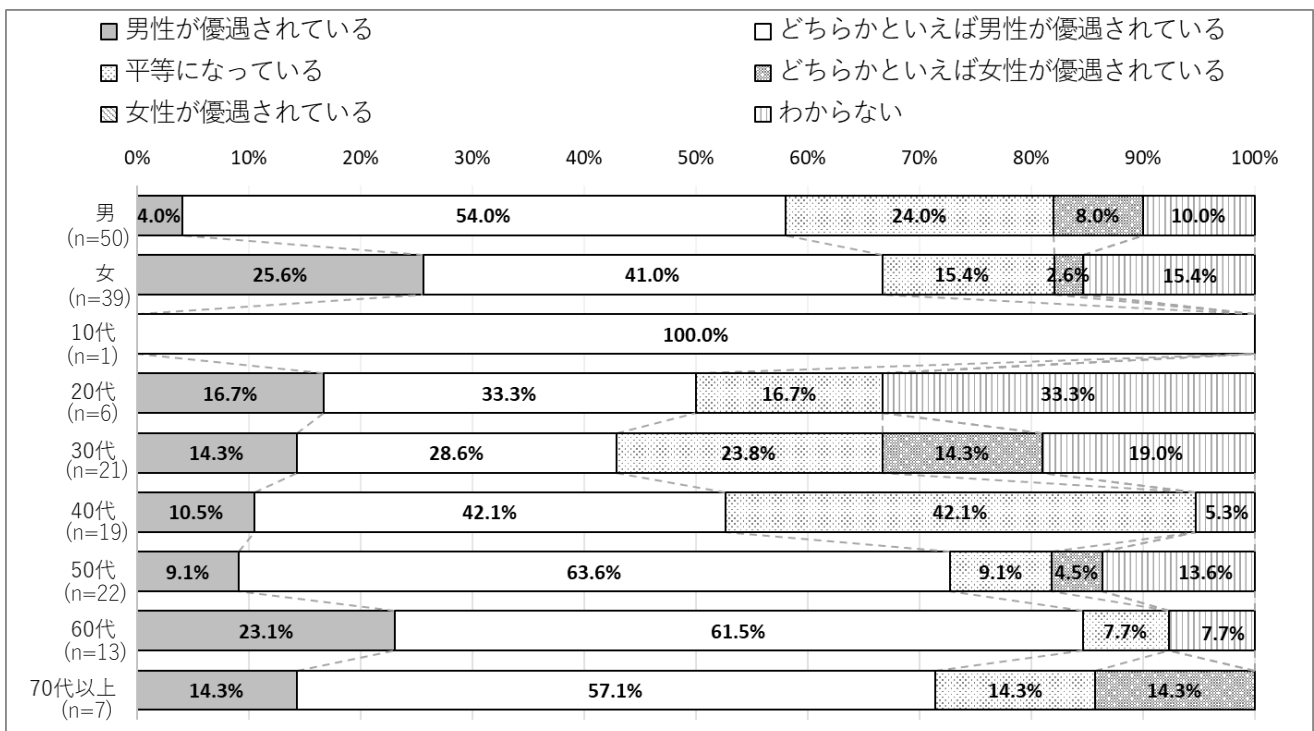


【男女別】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合は男性より女性の方が高い。

【年代別】

“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合がすべての年代で4割以上となっており、60代が最も高くなっている。



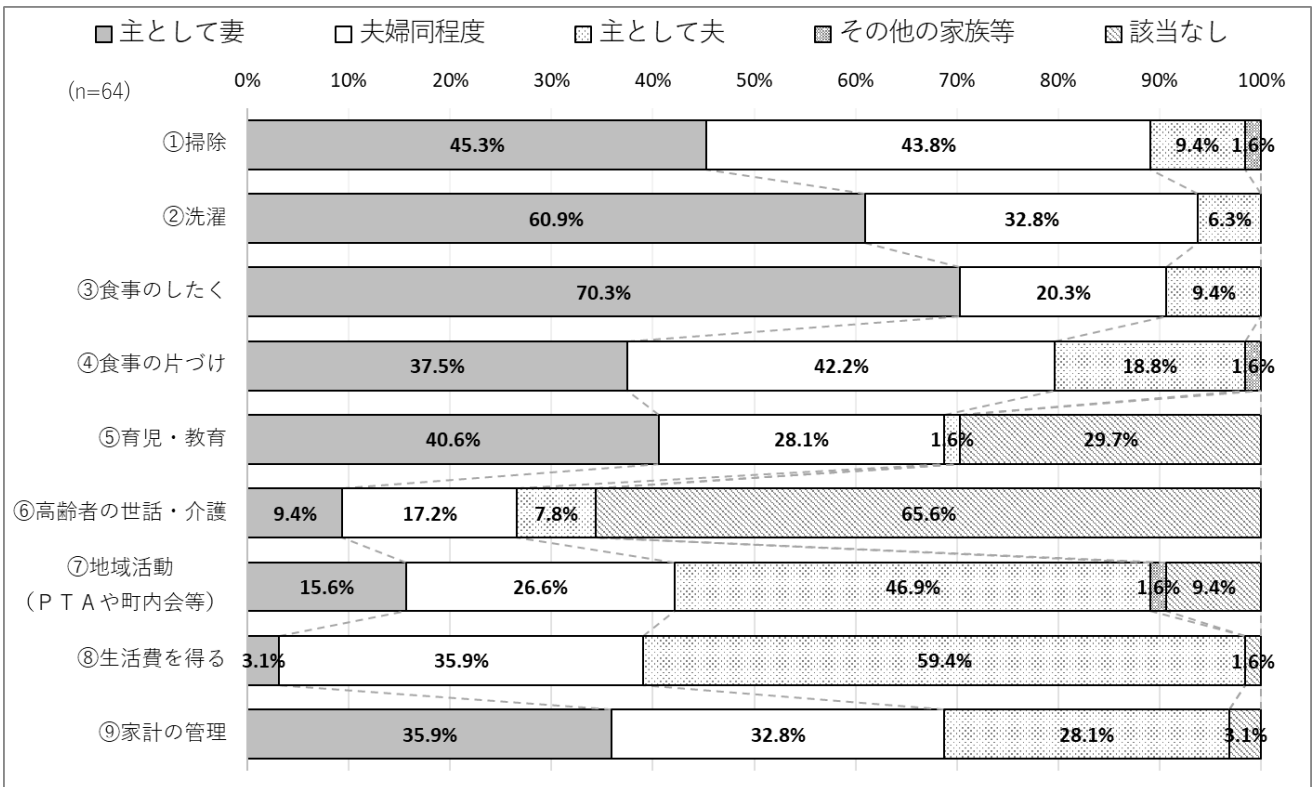
[成果指標 No. 12]

問3. 既婚の方にお尋ねします。あなたの家庭では、次の項目の仕事は夫婦のうち、どちらが主に担当されていますか。それぞれ次の1～5の中から1つだけ選んでください。

【全体】

〈①掃除〉〈②洗濯〉〈③食事のしたく〉〈⑤育児・教育〉〈⑨家計の管理〉の主な担当について、“主として妻”と回答している割合が最も高く、〈④食事の片づけ〉〈⑥高齢者の世話・介護〉は、“該当なし”を除くと、“夫婦同程度”が最も高くなっている。

一方、〈⑦地域活動（PTA や町内会等）〉〈⑧生活費を得る〉は“主として夫”が最も高い。



[成果指標 No. 12]

「家事」に夫婦同程度で取り組んでいる世帯の割合

(掃除・洗濯・食事のしたく・食事の片づけの項目で「夫婦同程度」の割合)

項目	回答者数	「夫婦同程度」と回答した人数
①掃除	64	28
②洗濯	64	21
③食事のしたく	64	13
④食事の片づけ	64	27
①～④合計	256	89
「夫婦同程度」の回答者の割合		34.8%

<問3-① 掃除>

【全体】

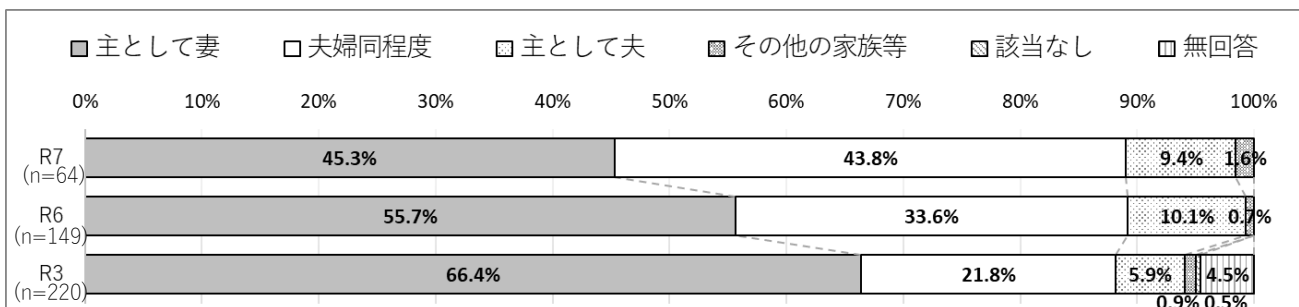
“主として妻”と回答した割合が45.3%と最も高く、次いで“夫婦同程度”と回答した割合が43.8%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“主として妻”と回答した割合が減少しており、“夫婦同程度”と回答した割合が増加している。

(“主として妻” R7 : 45.3%、R6 : 55.7%、R3 : 66.4%)

(“夫婦同程度” R7 : 43.8%、R6 : 33.6%、R3 : 21.8%)

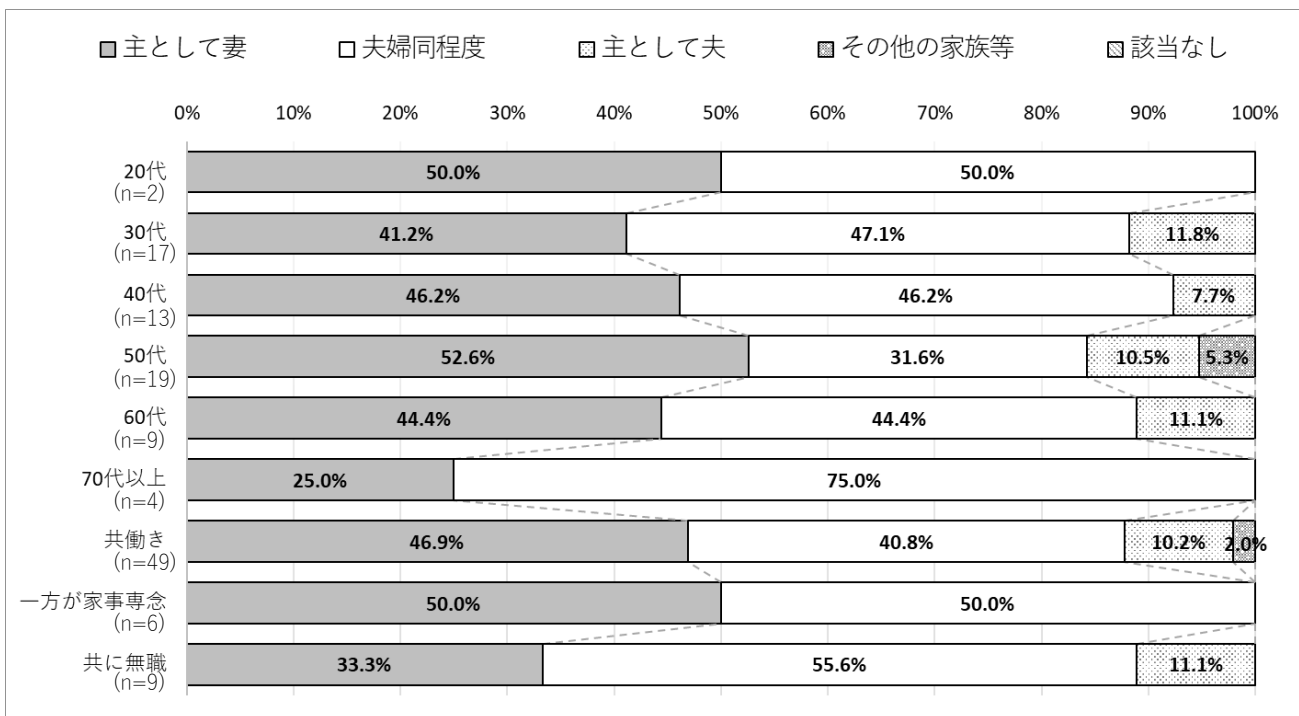


【年代別】

“主として妻”と回答した割合は50代が最も高く、30代、70代以上では“夫婦同程度”と回答した割合が最も高くなっている。20代、40代、60代では“主として妻”と“夫婦同程度”の割合が同じ割合になっている。

【共働きの状況】

共働きでは“主として妻”と回答した割合が最も高く、共に無職では“夫婦同程度”と回答した割合が最も高く、5割を超えている。



<問3-② 洗濯>

【全体】

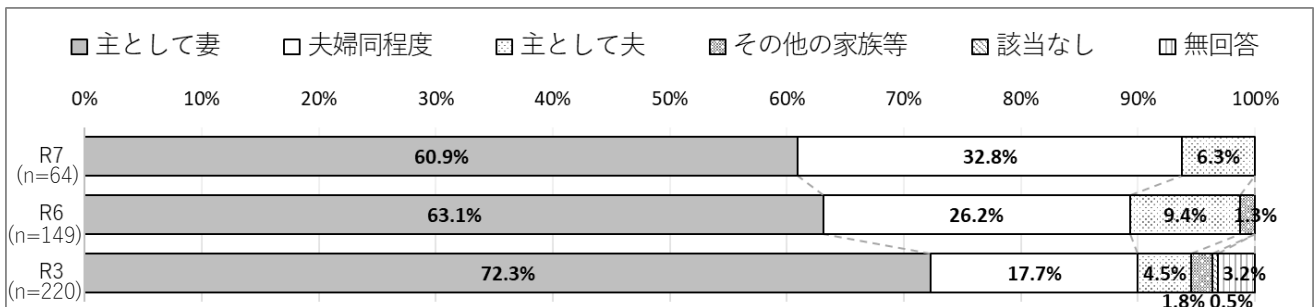
“主として妻”と回答した割合が60.9%、次いで“夫婦同程度”と回答した割合が32.8%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“主として妻”と回答した割合が減少して“夫婦同程度”と回答した割合が増加している。

(“主として妻” R7 : 60.9%、R6 : 63.1%、R3 : 72.3%)

(“夫婦同程度” R7 : 32.8%、R6 : 26.2%、R3 : 17.7%)

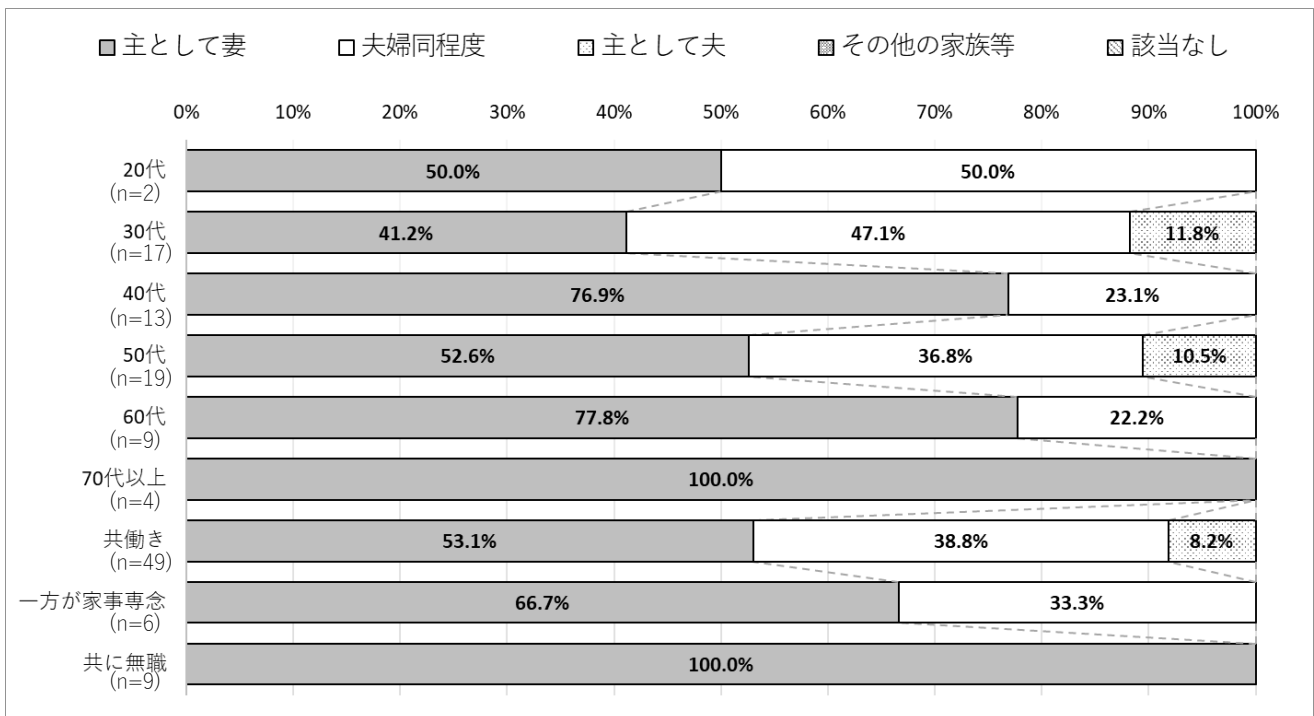


【年代別】

“主として妻”と回答した割合は、20代、30代以外の年代で最も高く、40代以上のすべての年代で5割を超えている。

【共働きの状況】

共働き、一方が家事専念、共に無職の全ての世帯で“主として妻”と回答した割合が5割を超えている。



<問3-③ 食事のしたく>

【全体】

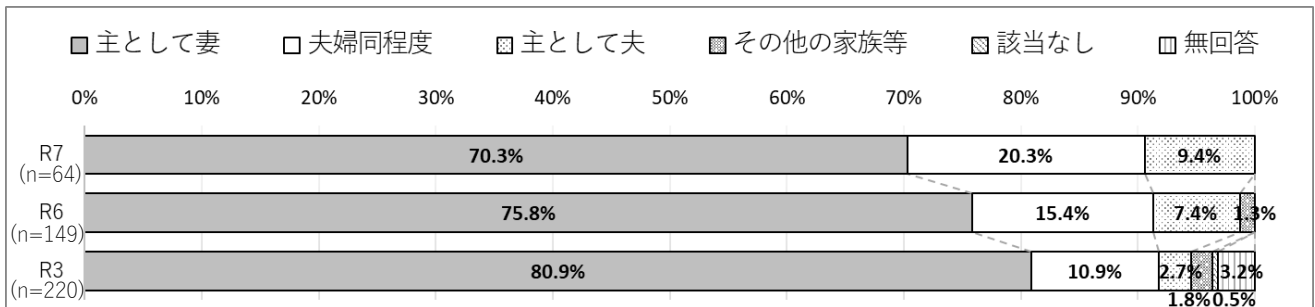
“主として妻”と回答した割合が70.3%、次いで“夫婦同程度”と回答した割合が20.3%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“主として妻”と回答した割合が減少して“夫婦同程度”と回答した割合が増加している。

(“主として妻” R7 : 70.3%、R6 : 75.8%、R3 : 80.9%)

(“夫婦同程度” R7 : 20.3%、R6 : 15.4%、R3 : 10.9%)

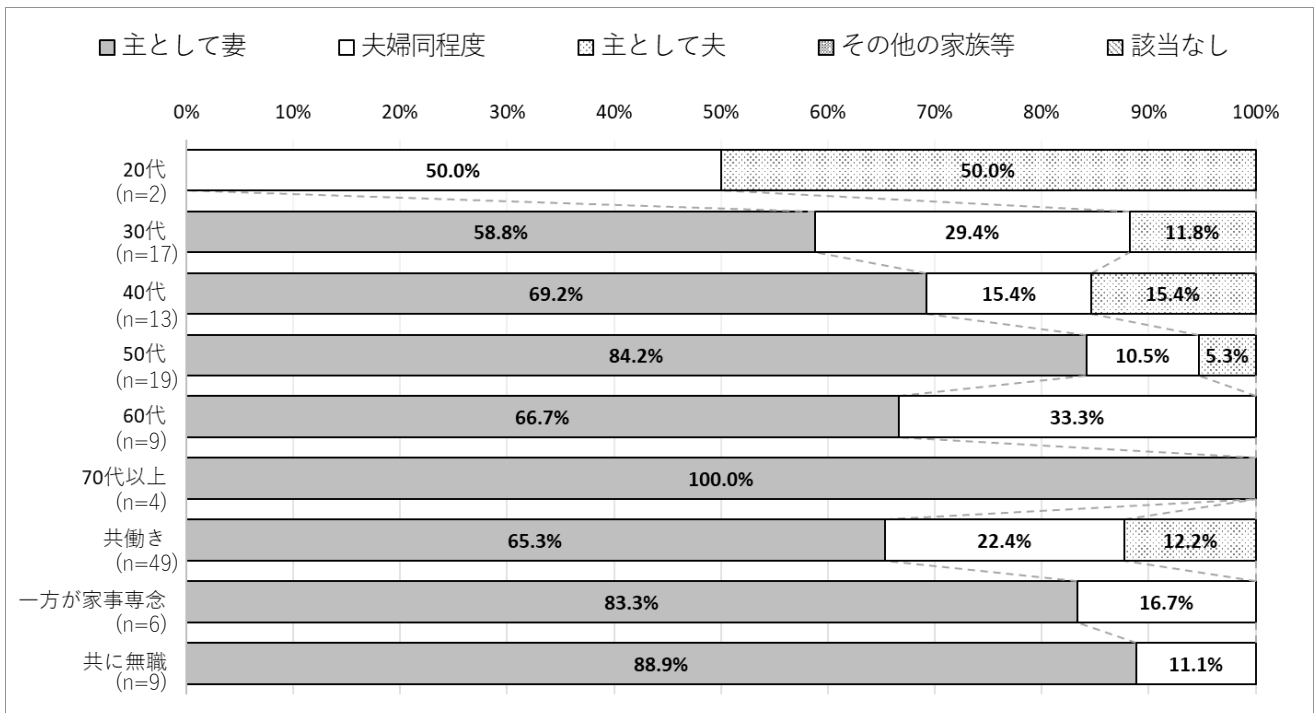


【年代別】

“主として妻”と回答した割合は、30代以上の年代で5割を超えている。

【共働きの状況】

共働き、一方が家事専念、共に無職の全ての世帯で“主として妻”と回答した割合が6割を超えている。



<問3-④ 食事の片づけ>

【全体】

“夫婦同程度”と回答した割合が42.2%、次いで“主として妻”と回答した割合が37.5%と続いている。

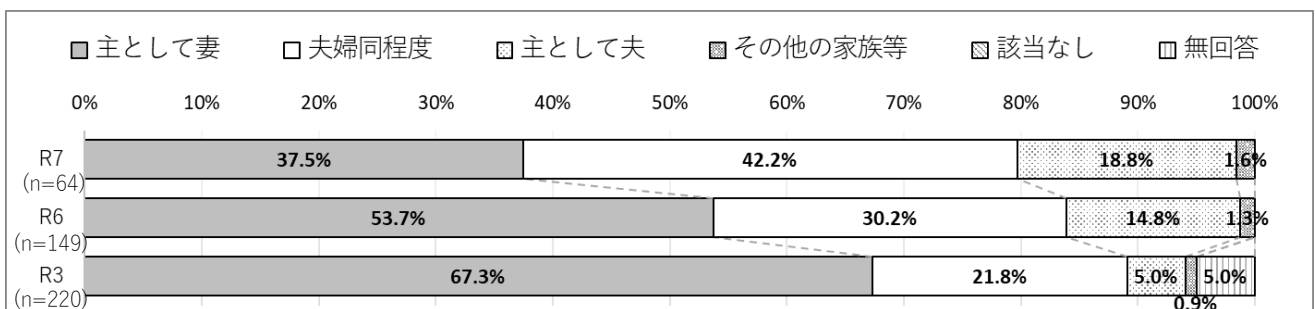
【過去アンケートとの比較】

“主として妻”と回答した割合が減少して“夫婦同程度”や“主として夫”と回答した割合が増加している。

(“主として妻” R7 : 37.5%、R6 : 53.7%、R3 : 67.3%)

(“夫婦同程度” R7 : 42.2%、R6 : 30.2%、R3 : 21.8%)

(“主として夫” R7 : 18.8%、R6 : 14.8%、R3 : 5.0%)

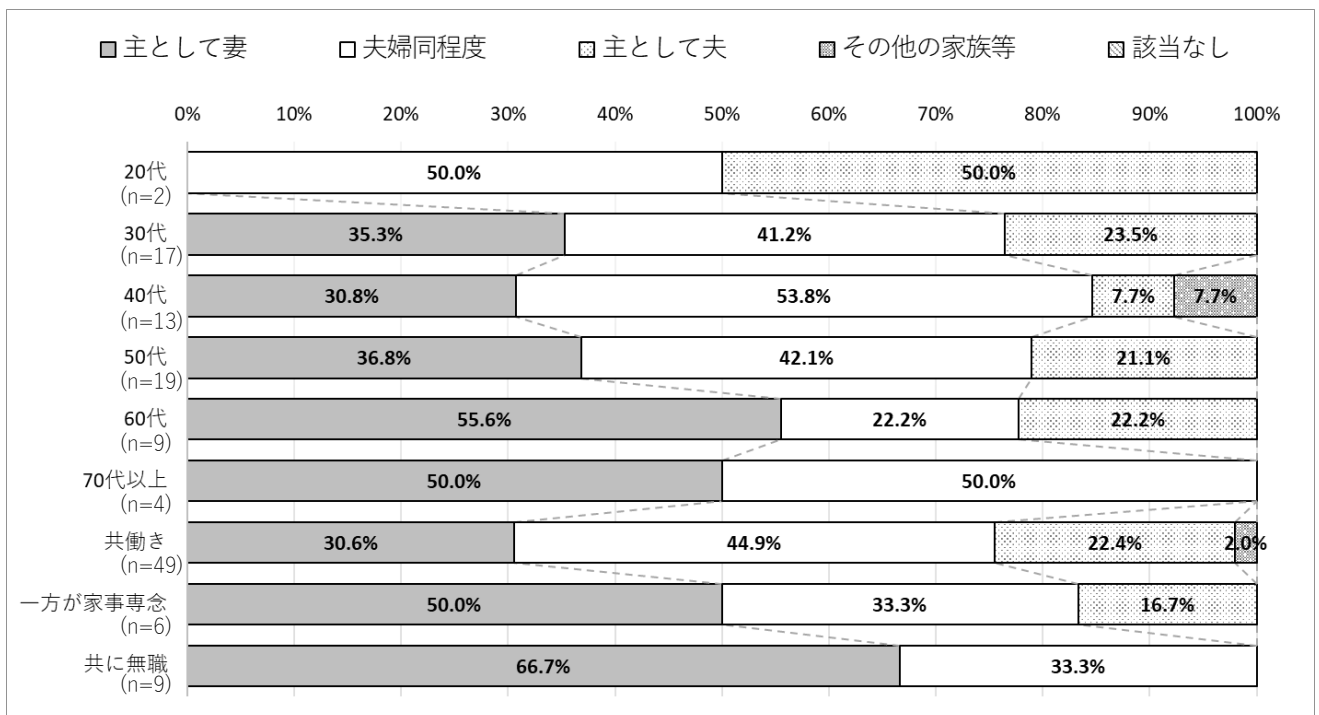


【年代別】

30代から50代は“夫婦同程度”と回答した割合が最も高いが、60代は“主として妻”と回答した割合が最も高い。

【共働きの状況】

共働きでは“夫婦同程度”と回答した割合が最も高く、一方が家事専念、共に無職では“主として妻”と回答した割合が最も高い。



<問3-⑤ 育児・教育> [成果指標No.13]

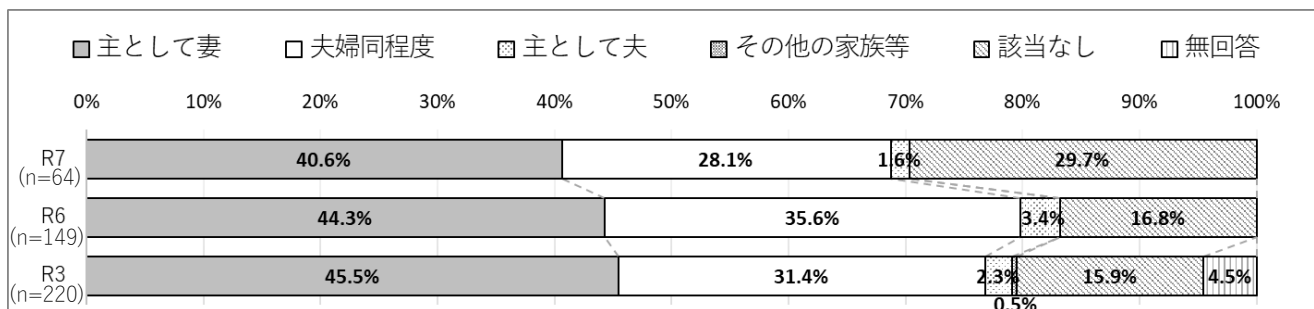
【全体】

“該当なし”を除くと、“主として妻”と回答した割合が40.6%、次いで“夫婦同程度”と回答した割合が28.1%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“主として妻”と回答した割合が減少している。

(“主として妻” R7 : 40.6%、R6 : 44.3%、R3 : 45.5%)

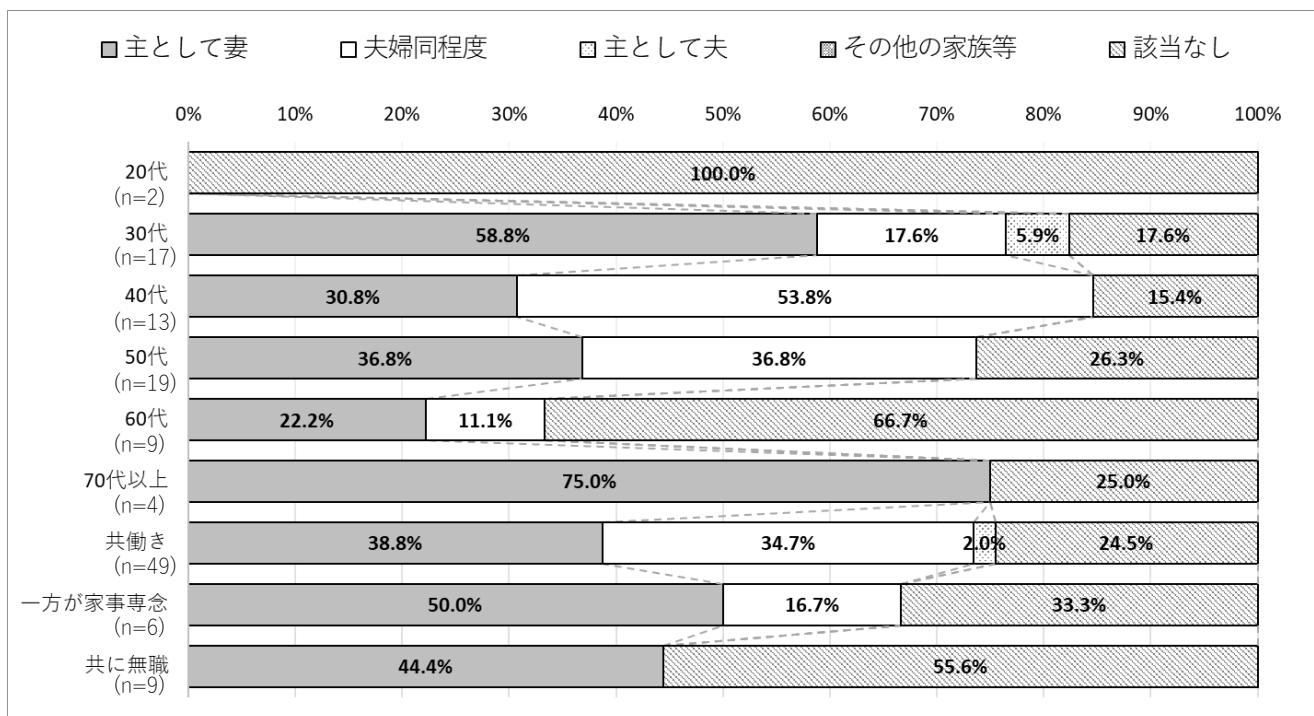


【年代別】

“該当なし”を除くと、30代、60代、70代以上の年代で“主として妻”と回答した割合が最も高く、50代では“主として妻”と“夫婦同程度”が同じ割合、40代では“夫婦同程度”が最も高くなっている。

【共働きの状況】

“該当なし”を除くと、共働き、一方が家事専念、共に無職の全ての世帯で“主として妻”と回答した割合が最も高い。



<問3-⑥ 高齢者の世話・介護>

【全体】

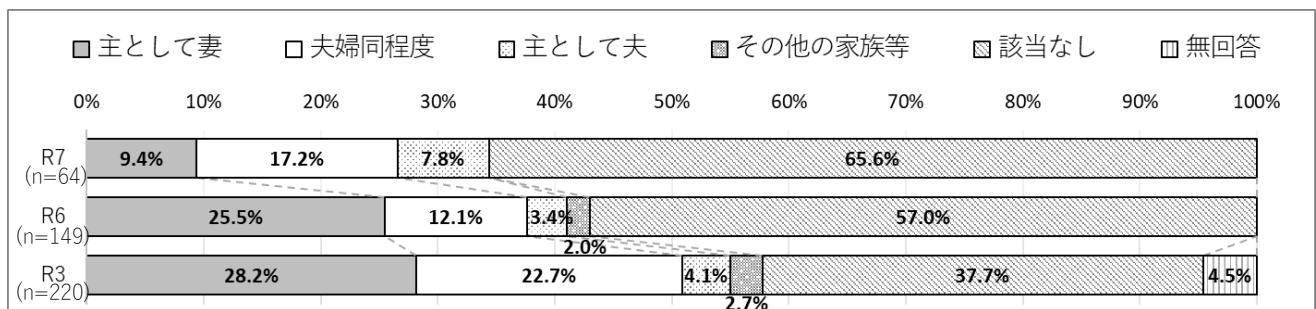
“該当なし”を除くと、“夫婦同程度”と回答した割合が17.2%と最も高く、次いで“主として妻”が9.4%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“主として妻”と回答した割合が減少していて、“該当なし”と回答した割合が増加している。

(“主として妻” R7 : 9.4%、R6 : 25.5%、R3 : 28.2%)

(“該当なし” R7 : 65.6%、R6 : 57.0%、R3 : 37.7%)

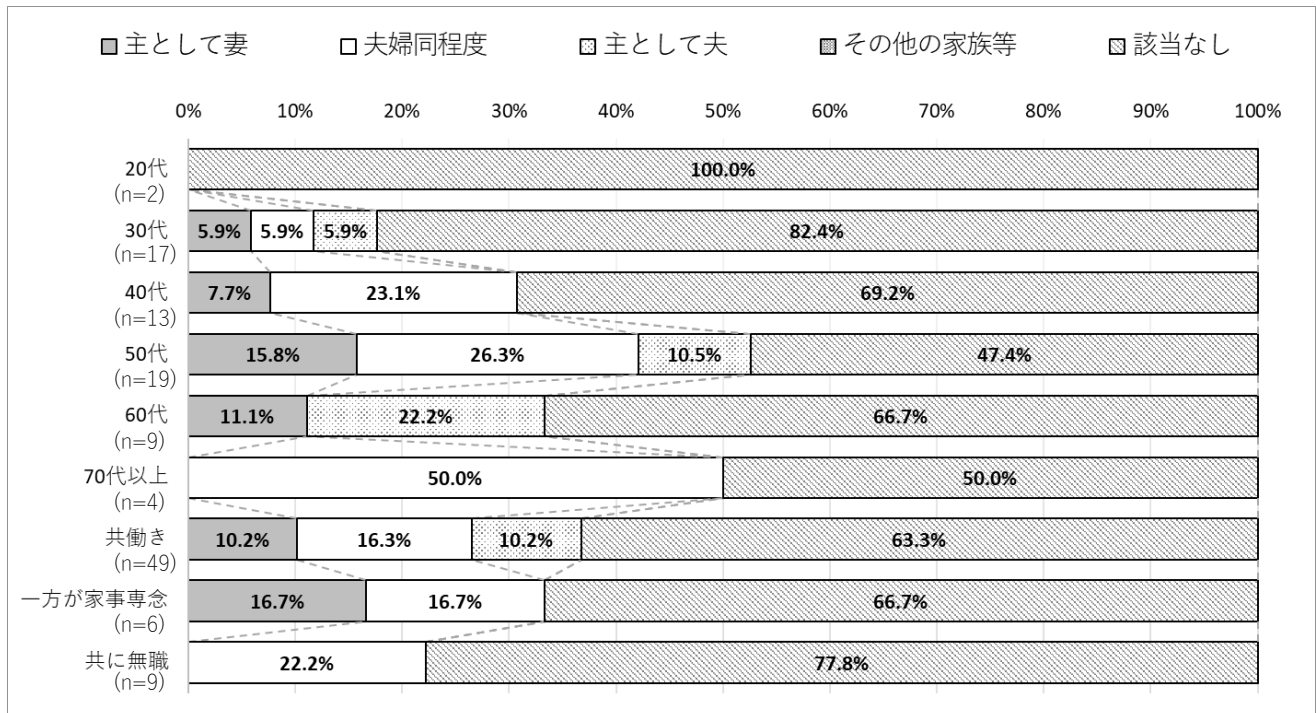


【年代別】

“主として妻”と回答した割合は50代が最も高く、“主として夫”と回答した割合は60代が最も高い。

【共働きの状況】

“該当なし”を除くと、共働き、共に無職では“夫婦同程度”と回答した割合が最も高く、一方が家事専念では“主として妻”“夫婦同程度”と回答した割合が同じ割合となっている。



<問3-⑦ 地域活動（PTA や町内会等）>

【全体】

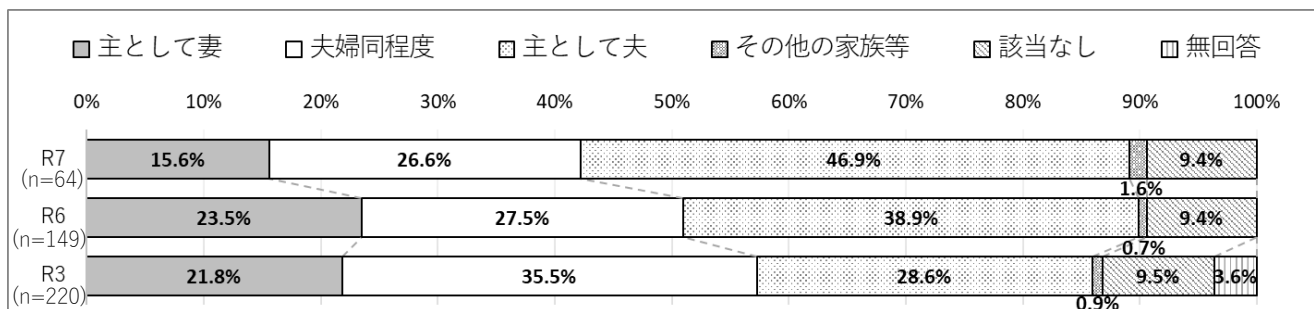
“主として夫”と回答した割合が46.9%と最も高く、次いで“夫婦同程度”が26.6%、“主として妻”が15.6%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“夫婦同程度”と回答した割合が減少して“主として夫”と回答した割合が増加している。

（“夫婦同程度” R7：26.6%、R6：27.5%、R3：35.5%）

（“主として夫” R7：46.9%、R6：38.9%、R3：28.6%）

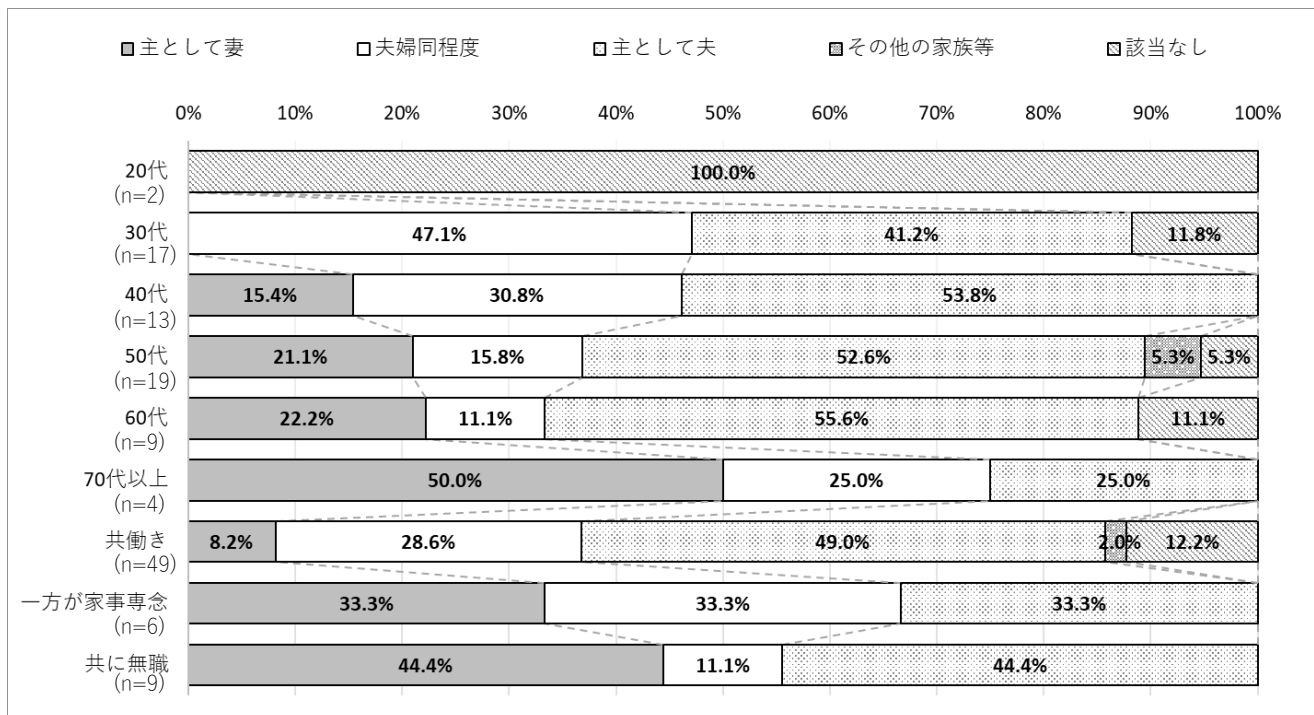


【年代別】

40代から60代では“主として夫”と回答した割合が最も高く、70代では“主として妻”と回答した割合が最も高い。

【共働きの状況】

共働きの世帯では、“主として夫”と回答した割合が約5割となっているが、一方が家事専念、共に無職の世帯では、“主として妻” “主として夫”と回答した割合が同じ割合となっている。



<問3-⑧ 生活費を得る>

【全体】

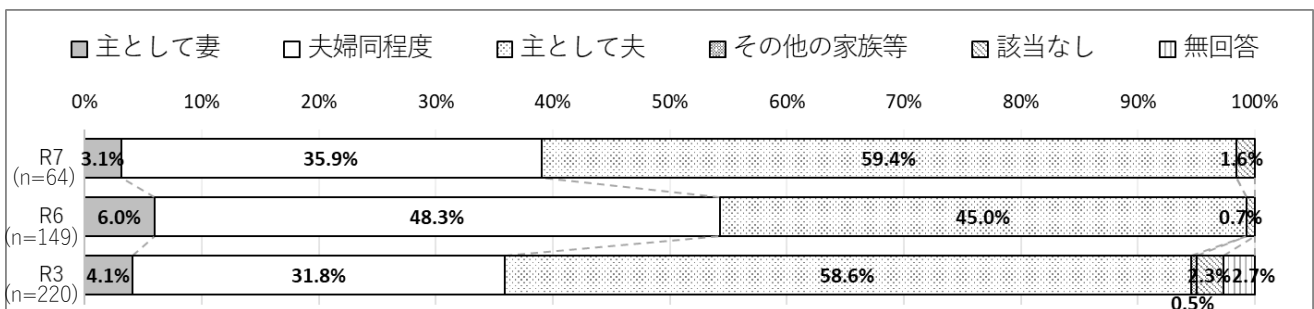
“主として夫”と回答した割合が59.4%と最も高く、次いで“夫婦同程度”が35.9%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“主として夫”と回答した割合は、令和6年では減少したが、令和7年で増加した。“夫婦同程度”と回答した割合は令和6年では増加したが、令和7年では減少した。

(“主として夫” R7 : 59.4%、R6 : 45.0%、R3 : 58.6%)

(“夫婦同程度” R7 : 35.9%、R6 : 48.3%、R3 : 31.8%)

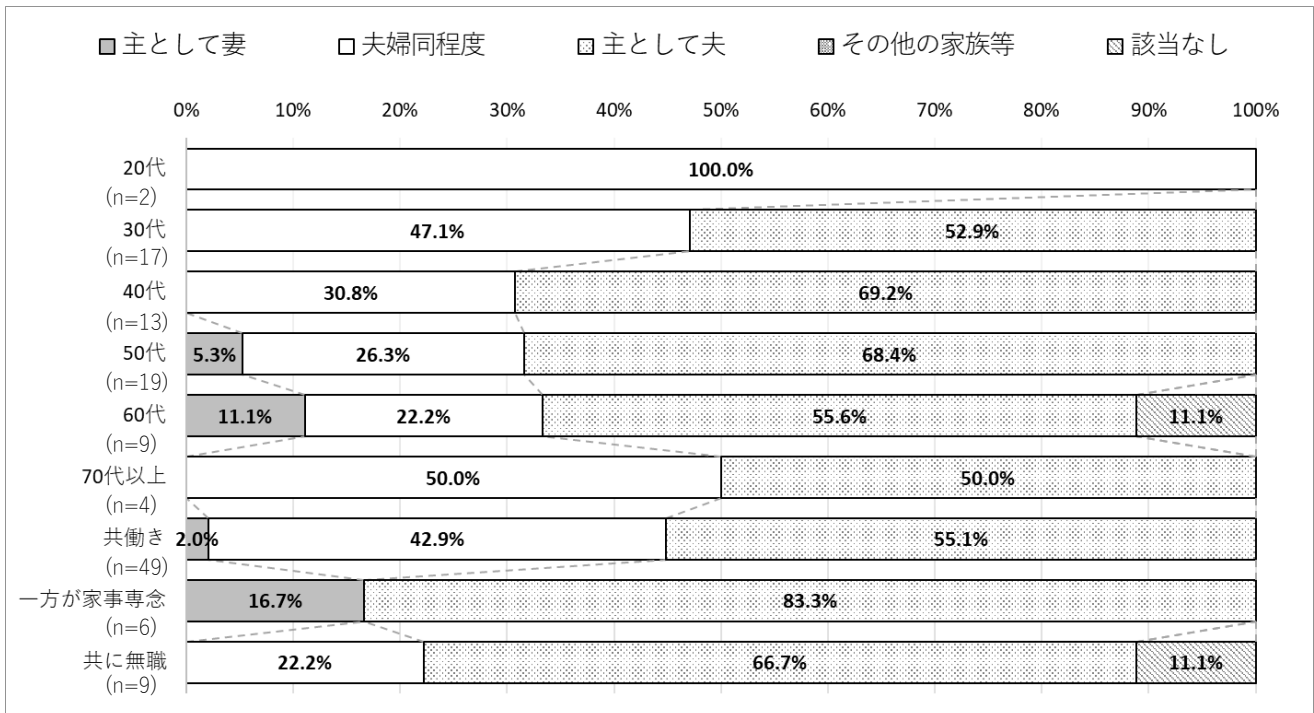


【年代別】

“主として夫”と回答した割合は、30代から60代の年代で5割を超えており、20代から40代、70代では“主として妻”と回答した割合が0%となっている。

【共働きの状況】

共働き、一方が家事専念、共に無職のすべての世帯で、“主として夫”と回答している割合が最も高く、5割を超えている。



<問3-⑨ 家計の管理>

【全体】

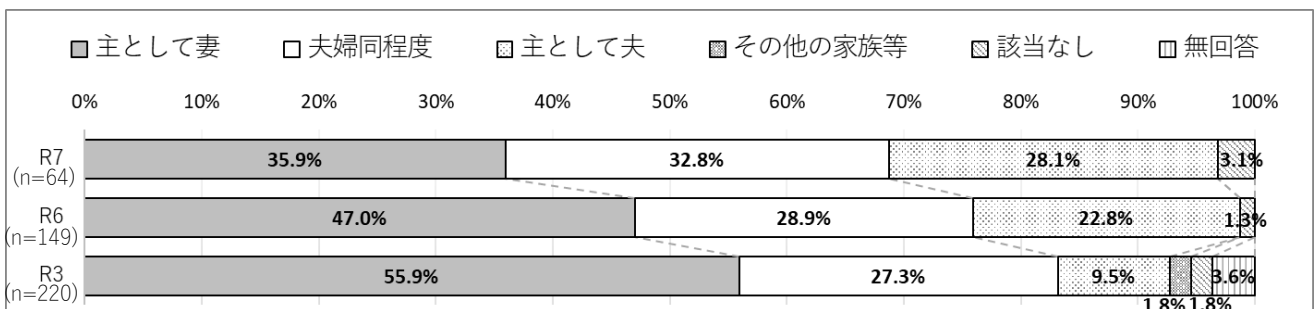
“主として妻”と回答した割合が35.9%、次いで“夫婦同程度”と回答した割合が32.8%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“主として妻”と回答した割合が減少しており、“主として夫”と回答した割合が増加している。

(“主として妻” R7 : 35.9%、R6 : 47.0%、R3 : 55.9%)

(“主として夫” R7 : 28.1%、R6 : 22.8%、R3 : 9.5%)

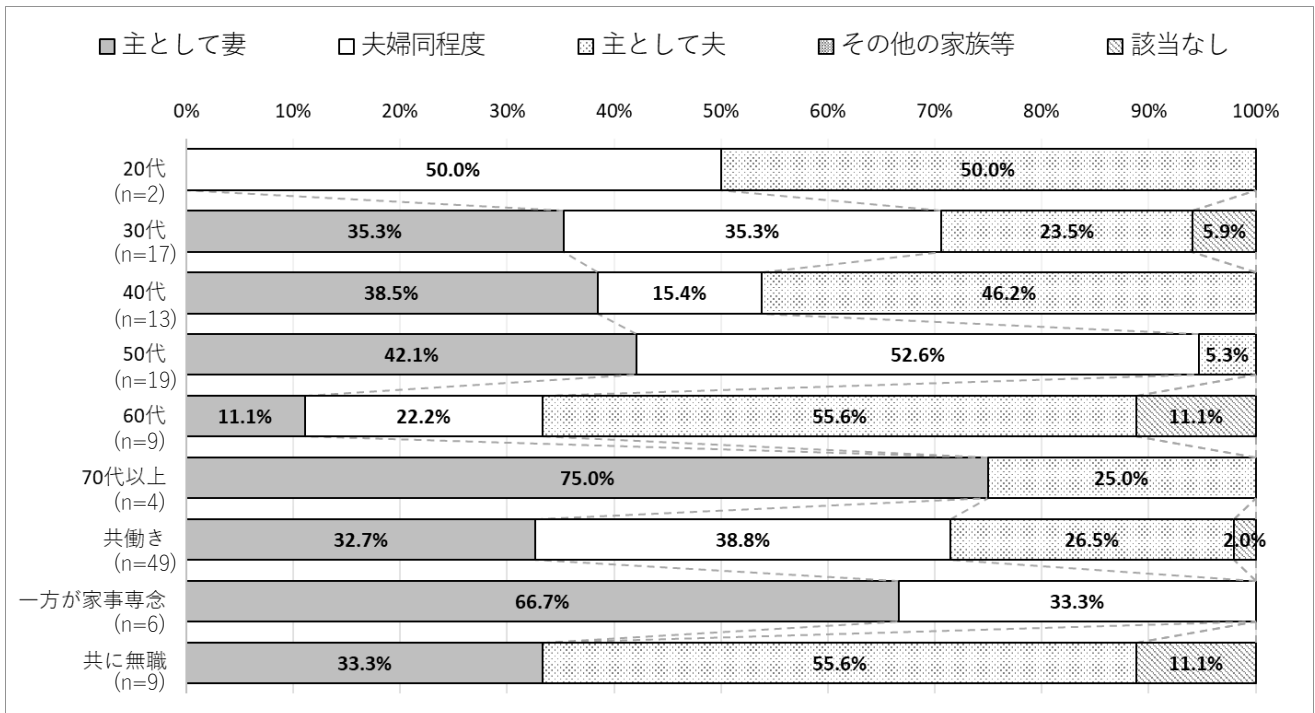


【年代別】

40代、60代では、“主として夫”と回答した割合が最も高いが、50代では“夫婦同程度”と回答した割合が最も高く、70代では“主として妻”と回答した割合が最も高い。

【共働きの状況】

共働き世帯では“夫婦同程度”と回答した割合が最も高いが、一方が家事専念の世帯では、“主として妻”と回答した割合が最も高く、共に無職の世帯では“主として夫”と回答した割合が最も高い。



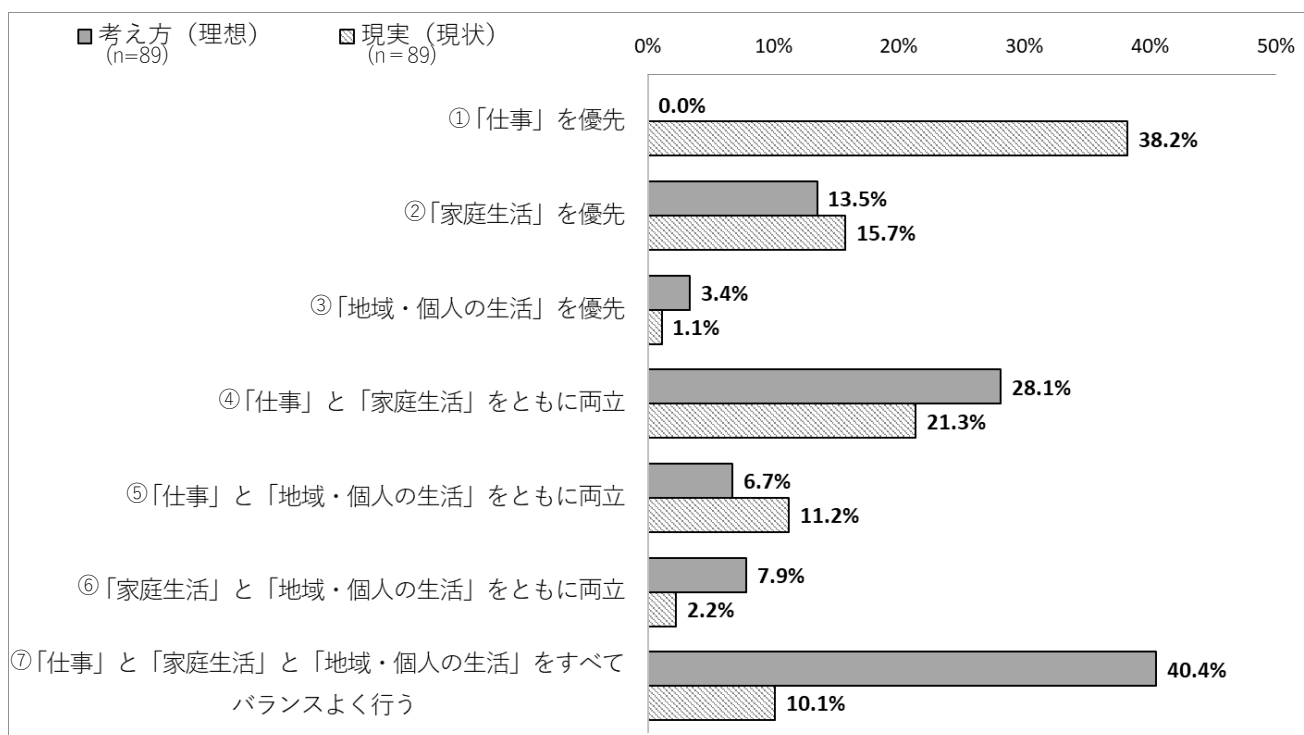
[成果指標No. 14]

問4. 仕事と生活について、あなたの考え方（理想）と現実（現状）に最も近いものはどれですか。
それぞれ次の1～7の中から1つずつ選んでください。

【全体】

〈考え方（理想）〉では、“⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う”が、40.4%と最も高く、次いで“④「仕事」と「家庭生活」をともに両立”が28.1%、“②「家庭生活」を優先”が13.5%と続いている。

〈現実（現状）〉では、“①「仕事」を優先”が38.2%と最も高く、次いで“④「仕事」と「家庭生活」をともに両立”が21.3%、“②「家庭生活」を優先”が15.7%と続いている。



[成果指標No. 14]

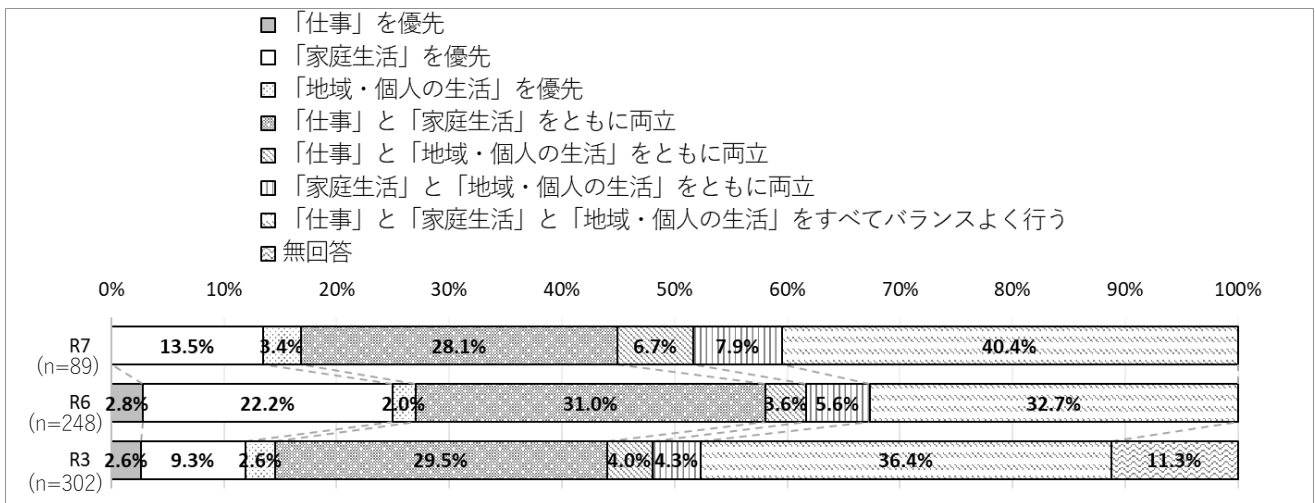
「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う」を理想と回答した人の割合と現実の割合とのギャップ

項目	「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う」と回答した人の割合
考え方（理想）	40.4%
現実（現状）	10.1%
考え方（理想）－現実（現状）	30.3%

<考え方（理想）>

【過去アンケートとの比較】

“「仕事」を優先”と回答した割合が0%となっている。（R7：0%、R6：2.8%、R3：2.6%）

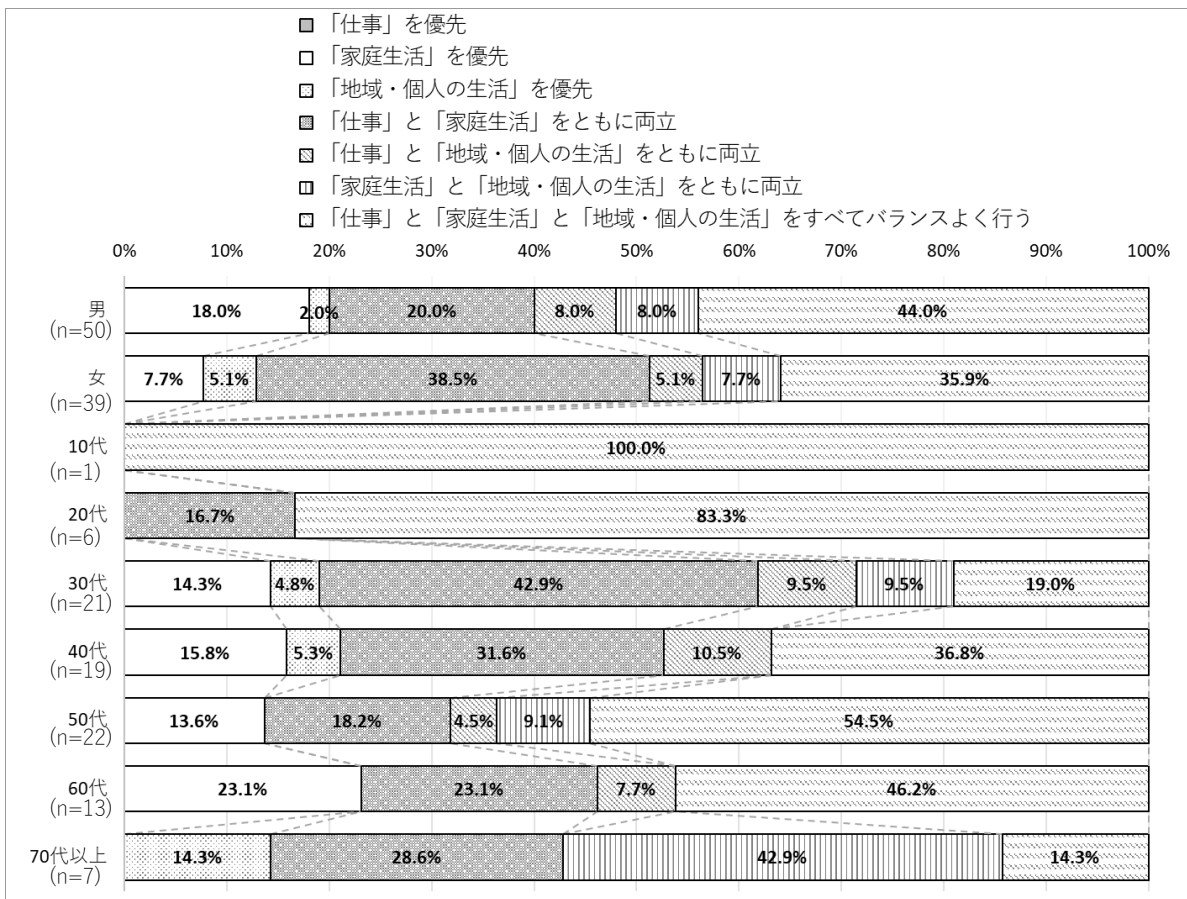


【男女別】

男性は“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う”と回答した割合が最も高く、女性は“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”と回答した割合が最も高い。

【年代別】

10代、20代、40代、50代では、“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う”と回答した割合が最も高いが、30歳では“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”と回答した割合が最も高く、70代以上では、“「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立”と回答した割合が最も高い。



<現実（現状）>

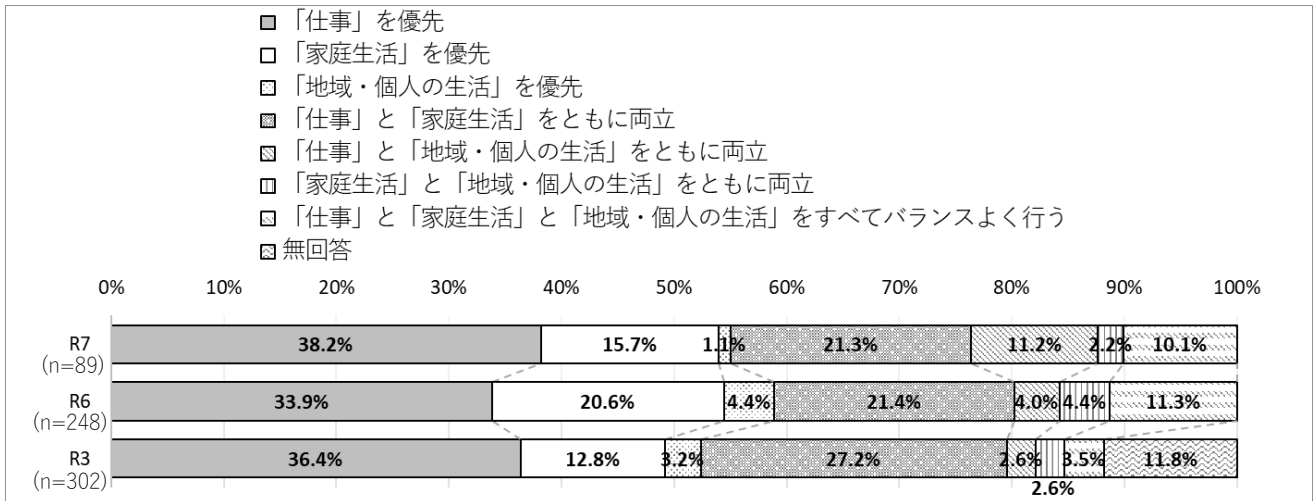
【過去アンケートとの比較】

“「仕事」を優先”と回答した割合は、令和6年、令和3年とそれぞれ比較すると増加している。

“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”と回答した割合が減少している。

（ “「仕事」を優先” R7：38.2%、R6：33.9%、R3：36.4%）

（ “「仕事」と「家庭生活」をともに両立” R7：21.3%、R6：21.4%、R3：27.2%）

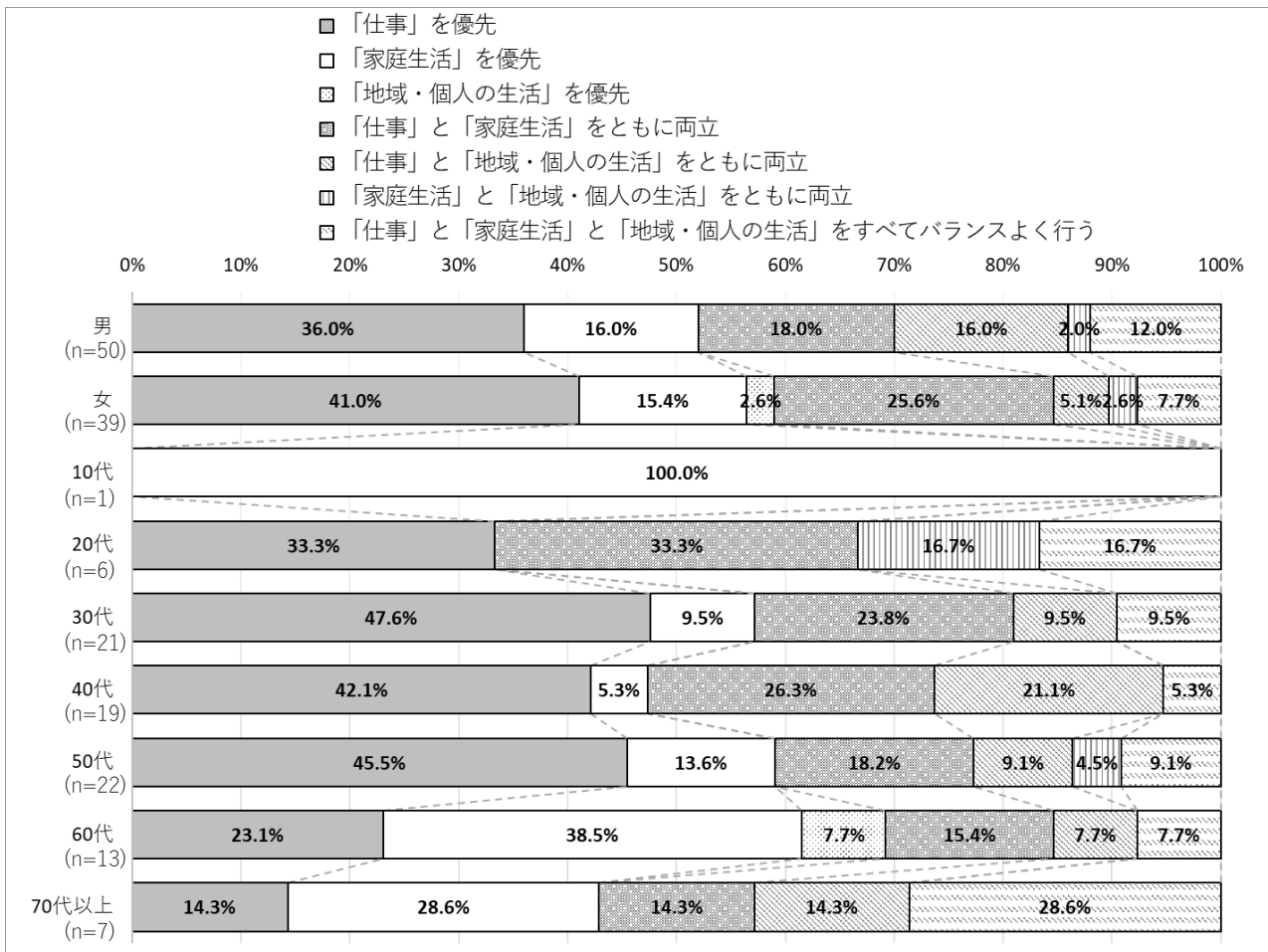


【男女別】

男女ともに“「仕事」を優先”と回答した割合が最も高い。

【年代別】

“「仕事」を優先”と回答した割合は、30代が最も高い。



[成果指標 No. 19]

問5. あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口として、どのようなものを知っていますか。次の1～9の中からあなたが知っているものをすべて選んでください。

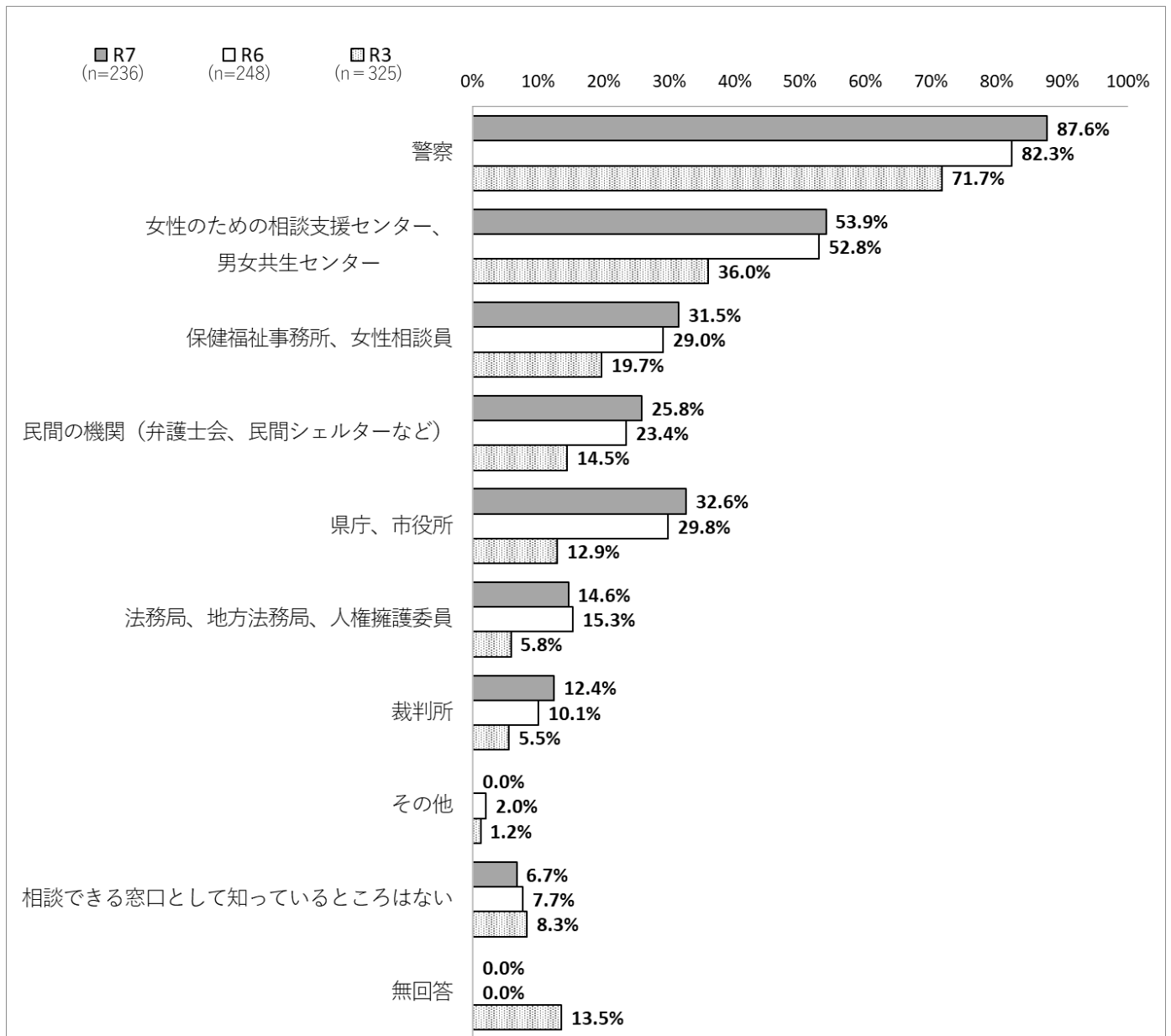
【全体】

“警察”と回答した割合が87.6%と最も高く、次いで“女性のための相談支援センター、男女共生センター”が53.9%、“県庁、市役所”が32.6%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

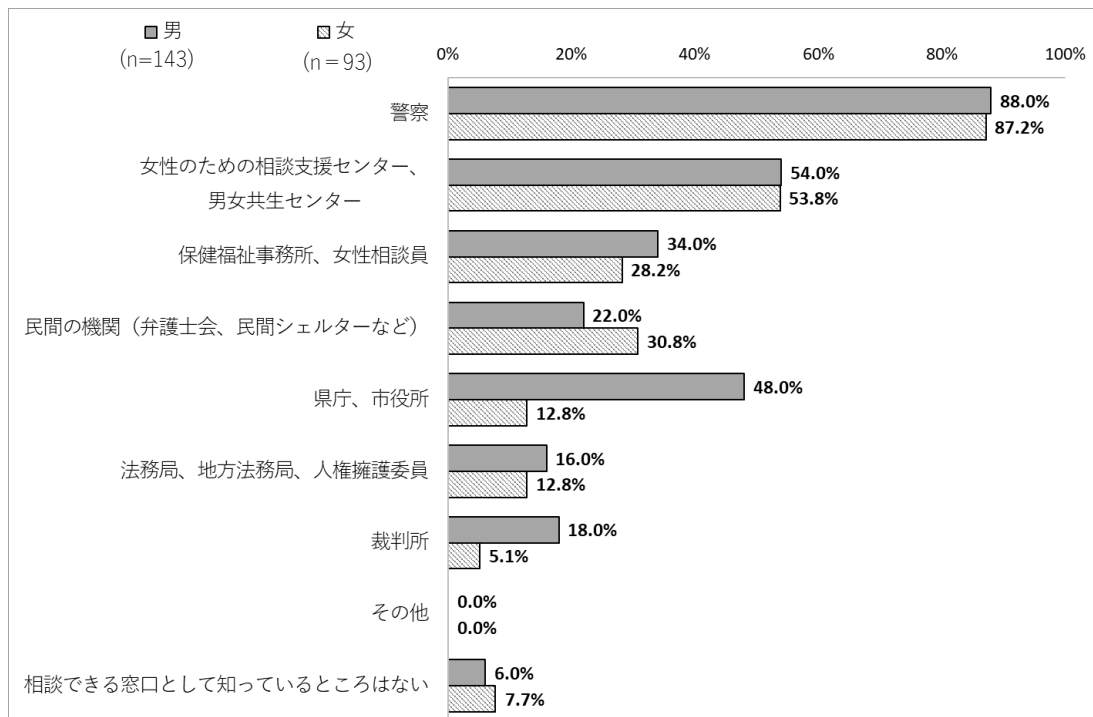
“相談できる窓口として知っているところはない”と回答した割合が減少しており、“法務局、地方法務局、人権擁護委員”以外のすべての相談先で“知っている”と回答した割合が増加している。

(“相談できる窓口として知っているところはない” R7 : 6.7%、R6 : 7.7%、R3 : 8.3%)



【男女別】

男女ともに“警察”と回答した割合が最も高い。



【年代別】

全ての年代で“警察”と回答した割合が7割を超えている。20代と40代以上では、“女性のための相談支援センター、男女共生センター”と回答した割合が5割を超えている。

	警察	女性のための相談支援センター、男女共生センター	保健福祉事務所、女性相談員	民間の機関（弁護士会、民間シェルターなど）	県庁、市役所
10代 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代 (n=16)	66.7%	66.7%	16.7%	33.3%	33.3%
30代 (n=47)	85.7%	42.9%	23.8%	14.3%	23.8%
40代 (n=54)	89.5%	52.6%	42.1%	42.1%	31.6%
50代 (n=62)	95.5%	63.6%	31.8%	18.2%	45.5%
60代 (n=35)	92.3%	53.8%	30.8%	30.8%	23.1%
70代以上 (n=21)	71.4%	57.1%	42.9%	28.6%	42.9%

	法務局、地方法務局、人権擁護委員	裁判所	その他	相談できる窓口として知っているところはない
10代 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代 (n=16)	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%
30代 (n=47)	14.3%	9.5%	0.0%	9.5%
40代 (n=54)	15.8%	5.3%	0.0%	5.3%
50代 (n=62)	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%
60代 (n=35)	15.4%	15.4%	0.0%	7.7%
70代以上 (n=21)	28.6%	0.0%	0.0%	28.6%

問6. あなたは、「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」または「パートナーシップ宣誓制度」という制度を知っていますか。

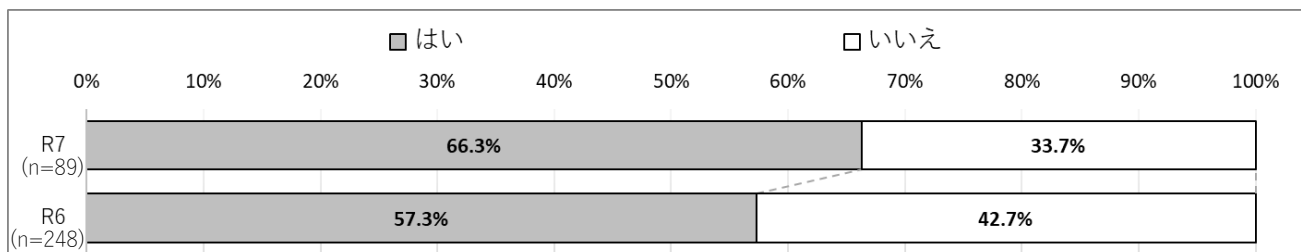
1、2どちらか選んでください。

【全体】

“はい”と回答した割合が66.3%、“いいえ”と回答した割合が33.7%となっている。

【令和6年アンケートとの比較】

“はい”と回答した割合が増加している。(R7：66.3%、R6：57.3%)

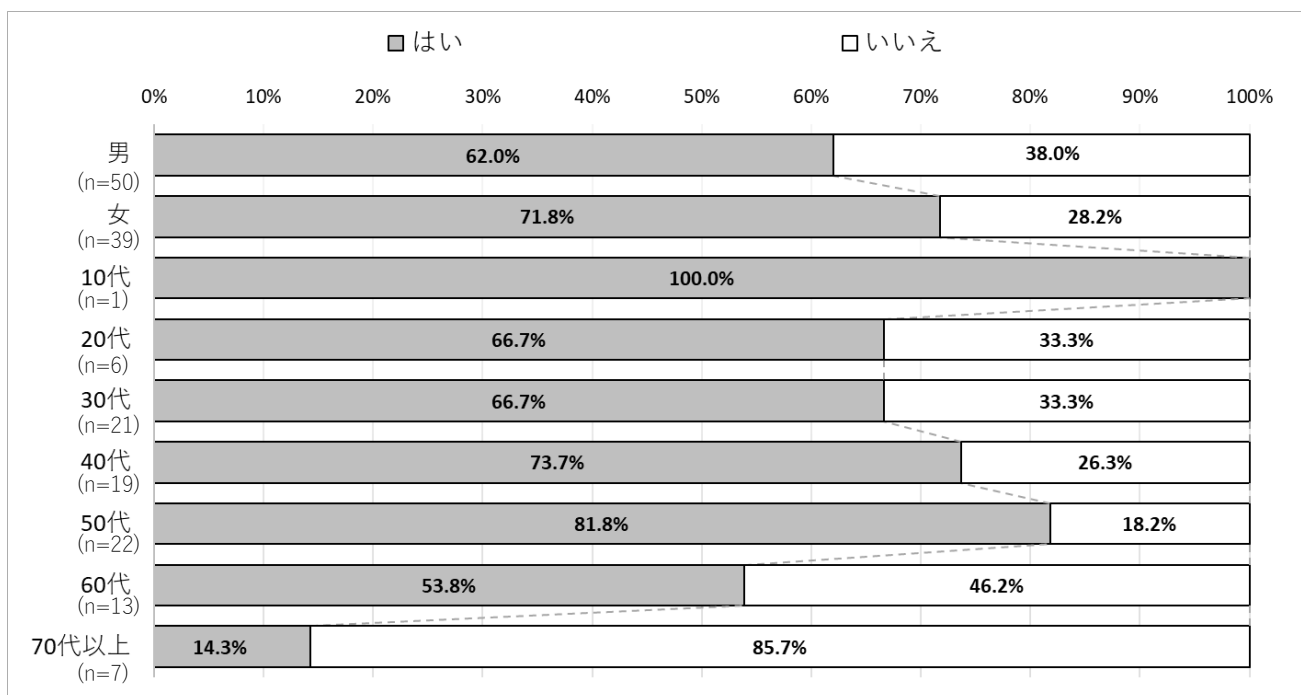


【男女別】

“はい”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年齢別】

“いいえ”と回答した割合は70代以上が最も高く、8割を超えている。



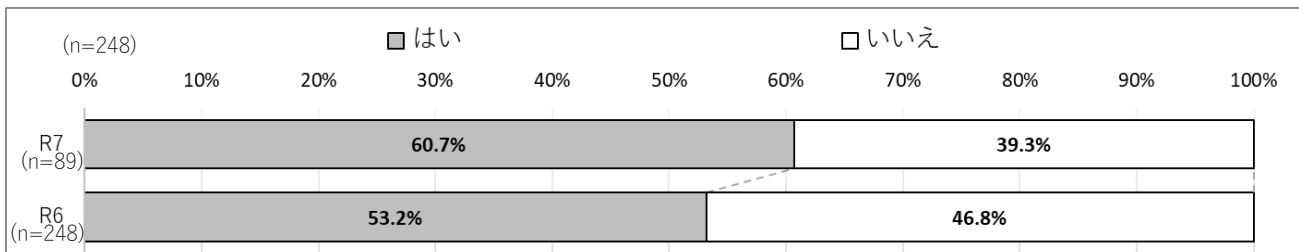
問7. 伊達市では、令和6年1月4日より、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入しました。導入されたことを知っていますか。
1、2どちらか選んでください。

【全体】

“はい”と回答した割合が60.7%、“いいえ”と回答した割合が39.3%となっている。

【令和6年アンケートとの比較】

“はい”と回答した割合が増加している。(R7：60.7%、R6：53.2%)

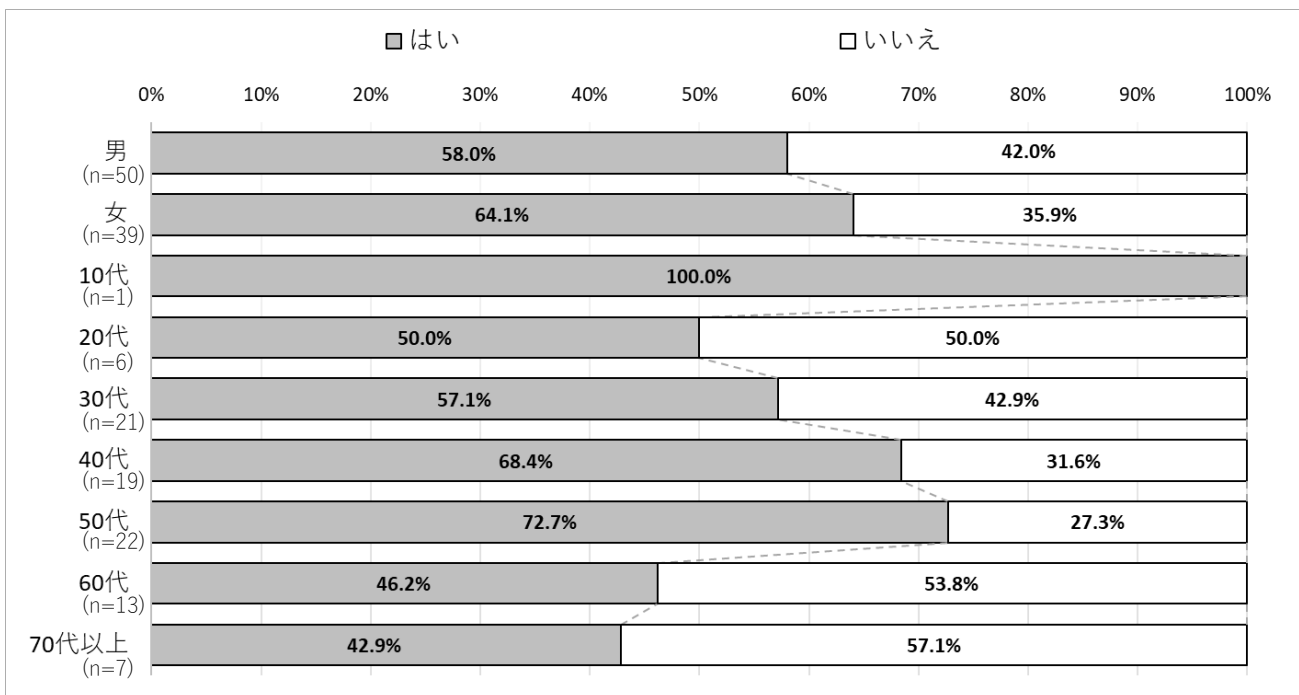


【男女別】

“はい”と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年代別】

“いいえ”と回答した割合は70代が最も高く、5割を超えている。



問8. 伊達市でパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度が導入されたことについて、どのように感じますか。

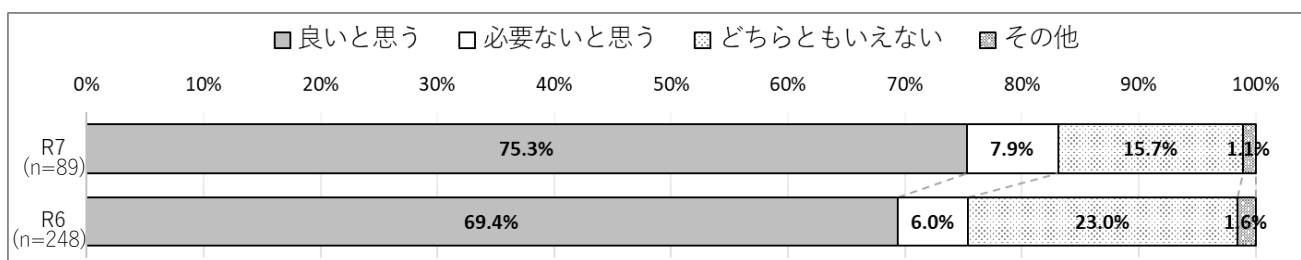
次の1～4の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

【全体】

“良いと思う”と回答した割合が75.3%と最も高く、次いで“どちらともいえない”が15.7%、“必要ないと思う”が7.9%と続いている。

【令和6年アンケートとの比較】

“はい”と回答した割合が増加している。(R7:75.3%、R6:69.4%)

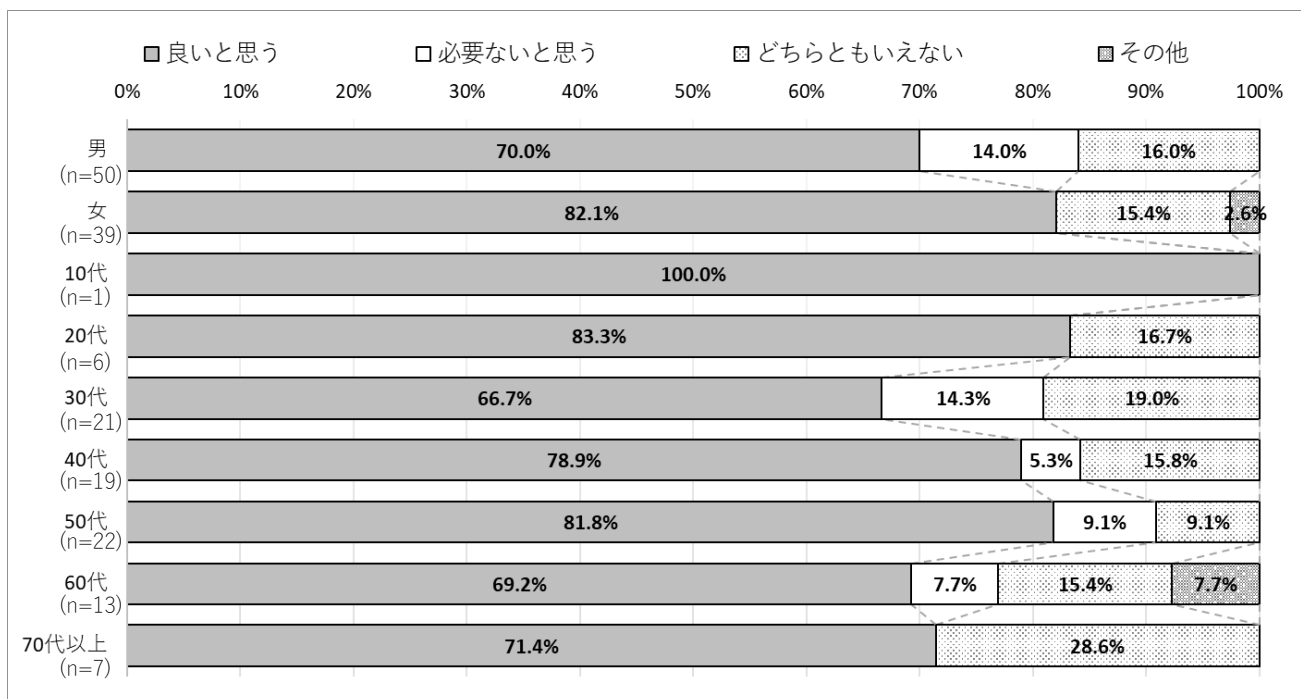


【男女別】

女性は“良いと思う”と回答した割合が8割を超えている。

【年代別】

すべての年代で“良いと思う”と回答した割合が最も高く、“必要ないと思う”と回答した割合は30代で1割を超えている。



問9. 男女共同参画社会の実現のため、行政に対してどのようなことを要望しますか。

次の1～11の中から3つ以内で選んでください。

【全体】

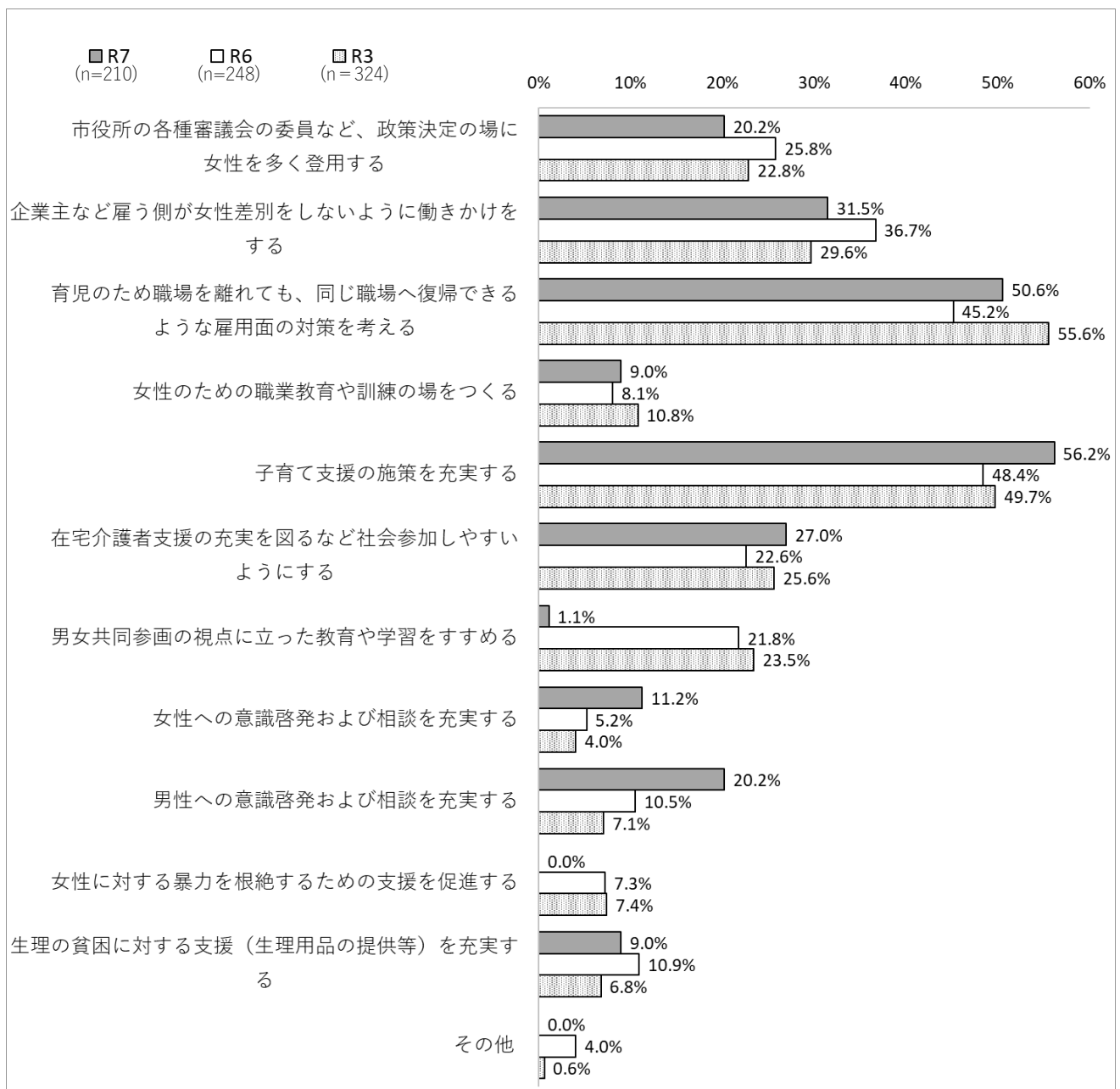
“子育て支援の施策を充実する”と回答した割合が56.2%と最も高く、次いで“育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える”が50.6%、“企業主など雇う側が女性差別をしないように働きかけをする”が31.5%と続いている。

【過去アンケートとの比較】

“子育て支援の施策を充実する”や“男性への意識啓発及び相談を充実する”と回答した割合が増加している。

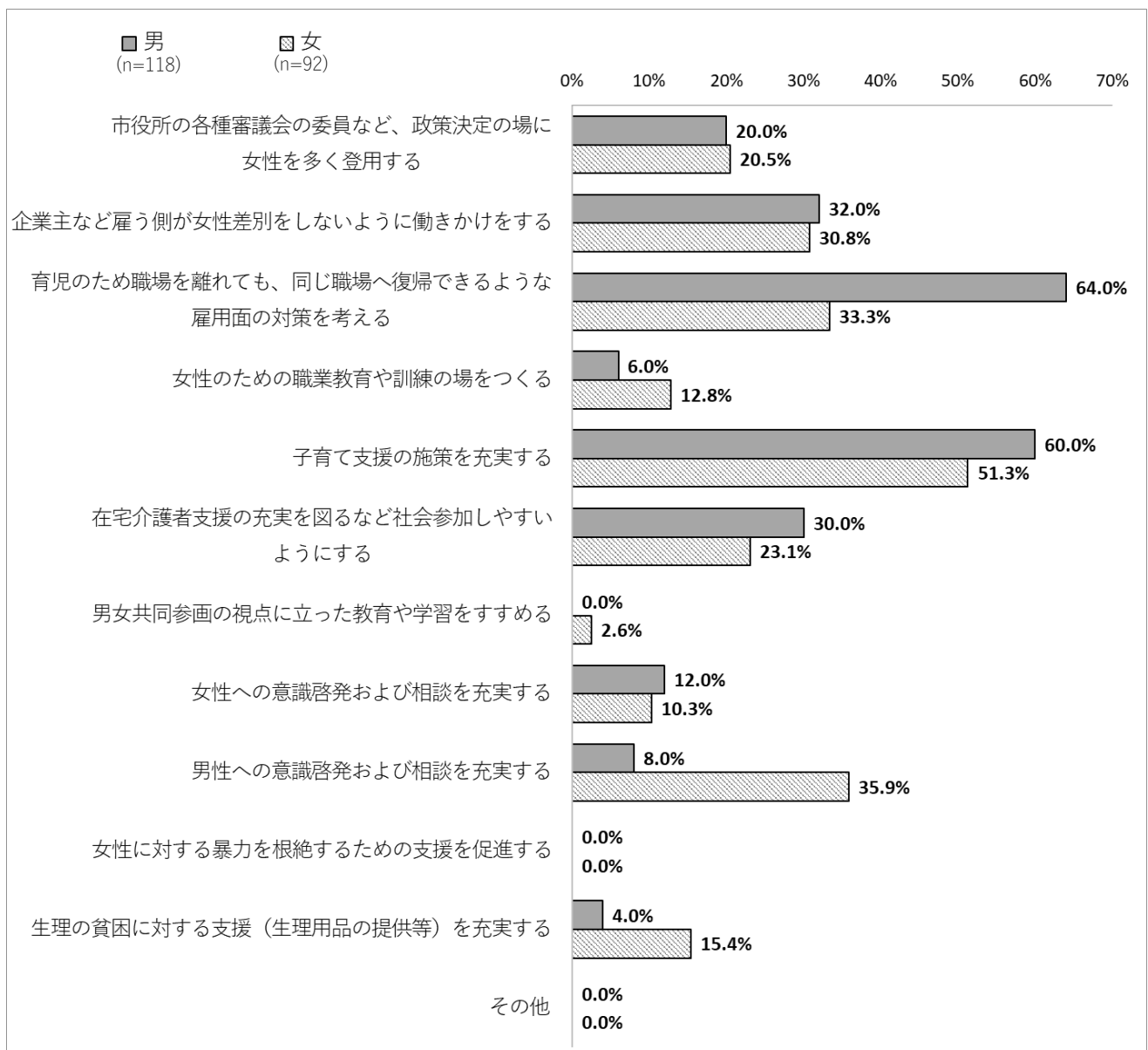
(“子育て支援の施策を充実する” R7 : 56.2%、R6 : 48.4%、R3 : 49.7%)

(“男性への意識啓発及び相談を充実する” R7 : 20.2%、R6 : 10.5%、R3 : 7.1%)



【男女別】

男性は“育児のための職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える”と回答した割合が最も高く、女性は“子育て支援の施策を充実する”と回答した割合が最も高い。



【年代別】

20代、40代、50代、70代以上では、“子育て支援の施策を充実する”と回答した割合が最も高く、30代、60代では、“育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える”と回答した割合が最も高い。

	市役所の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する	企業主など雇う側が女性差別をしないように働きかけをする	育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える	女性のための職業教育や訓練の場をつくる	子育て支援の施策を充実する	在宅介護者支援の充実を図るなど社会参加しやすいようにする
10代 (n=3)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
20代 (n=16)	16.7%	33.3%	66.7%	0.0%	83.3%	16.7%
30代 (n=48)	9.5%	23.8%	66.7%	14.3%	57.1%	23.8%
40代 (n=42)	5.3%	31.6%	47.4%	15.8%	57.9%	31.6%
50代 (n=53)	27.3%	40.9%	27.3%	4.5%	54.5%	27.3%
60代 (n=29)	30.8%	23.1%	61.5%	7.7%	30.8%	38.5%
70代以上 (n=19)	42.9%	42.9%	57.1%	0.0%	71.4%	14.3%

	男女共同参画の視点に立った教育や学習をすすめる	女性への意識啓発および相談を充実する	男性への意識啓発および相談を充実する	女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する	生理の貧困に対する支援（生理用品の提供等）を充実する	その他
10代 (n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
20代 (n=16)	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%
30代 (n=48)	0.0%	4.8%	23.8%	0.0%	4.8%	0.0%
40代 (n=42)	0.0%	10.5%	5.3%	0.0%	15.8%	0.0%
50代 (n=53)	0.0%	22.7%	27.3%	0.0%	9.1%	0.0%
60代 (n=29)	0.0%	7.7%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%
70代以上 (n=19)	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%

Ⅲ 結果の考察

令和3年8月に実施した男女共同参画市民アンケートの対象者は、無作為抽出であり、令和6年に実施した男女共同参画に関するWEBアンケート及び本アンケートは自主的に回答しているものであることから、令和6年アンケート及び本アンケートの方が回答者の男女共同参画についての意識が高いことが想定される。

このことを踏まえて本アンケートと過去のアンケートの結果を比較すると、問2の「家庭の中で」「職場の中で」の分野で“平等になっている”と回答した割合は若い世代ほど高くなっており、年代によって男女間の格差が少しずつ改善されている様子が見受けられた。

また、問3では、「掃除」「洗濯」「食事のしたく」「食事の片づけ」「生活費を得る」「家計の管理」の項目で“夫婦同程度”と回答した割合が過去アンケートと比べ増加しており、家庭内での役割分担の偏りが改善傾向にあることが分かった。

一方、問2の「社会通念・しきたり上で」と「地域社会で」の分野では、“男性が優遇されている”又は“どちらかといえば男性が優遇されている”と回答した割合が依然として高い状況となっており、地域の理解の促進、町内会への女性の参画促進等、更なる取り組みが必要であることが分かった。

また、問4では、“「仕事」を優先”することが理想と回答した人は0人であるにもかかわらず、現実では“「仕事」を優先”していると回答した割合が約4割に上っていることから、理想と現実のギャップが大きく、ワークライフバランスを実現できていない人は少なくないと考えられる。

今後は、数値の改善が見られた項目について継続して取り組みを進め、数値の改善が見られなかった項目については、重点的に市民・地域の男女共同参画意識の普及啓発に取り組み、本市の男女共同参画推進を進めていく。

IV 各設問の自由回答記述内容

※明らかな誤字・脱字の修正を除き、原文のまま掲載。

問8. 伊達市でパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度が導入されたことについて、どのように感じますか。

●わからなかったので回答できません（女性、60代）

問10. 男女共同参画社会づくりに向けて、ご自由にご意見をお書きください。

（家庭で、職場で、学校生活で、地域社会で、行政の対応についてなど）

●高齢者が住みやすい街づくり（女性、50代）

●アンコンシャスバイアスが強い。女性側の意識改革が必要で、それには地域での環境の改善が必要です。わかっているけど、人間関係をスムーズにするために、これまで通りの生活スタイルになってしまう。ただ急には変えなくても良いことと、変えた方がいいことがあり、段階的な捉え方が必要であると思う。だからこそ、市の取り組みは大切だと思います。（女性、50代）

●地方における女性の働き方は、家事労働との両立など負担が大きく、労働時間の制限や賃金の低さなど解決しなくてはならない問題は山積している。これを改善しなければ、若い女性は大都市へと流出し、少子高齢化に拍車がかかる。伊達市は、この問題に積極的に取り組むことで女性が住みたい町を目指していただきたい。（女性、50代）

●①男性、女性、共に意識改革が必要②特に、高齢層の男性(家庭でも、職場でも、地域でも)の意識改革が必要。（男性、70代以上）

●私たちが目指すべき「男女共同参画社会」とは、単に男女の数を半々にすることではありません。それは、性別という枠を超え、一人ひとりの個性と能力が最大限に発揮され、誰もが自分らしい生き方を選べる社会だと信じています。社会の最小単位である家庭から、この意識を変えていく必要があります。家事や育児の「分担」というと、時間で割る話になりがちですが、本当に大切なのは、献立を決めたり、学校の予定を管理したりといった「心の負担」（メンタルロード）を共有することです。「男だから外で稼ぐ」「女だから家庭を守る」といった無意識の決めつけを、私たち自身がまず手放し、子どもたちに自由な未来を見せてあげたい。そして、私たちの生活時間の大部分を占める職場。ここでは、公平な機会の提供が何より重要です。昇進や重要なプロジェクトのメンバー選びで、性別が邪魔をしてはいけません。実力と意欲で判断される透明なルールが必要です。また、男性も女性も、育児や介護と仕事を両立できるように、柔軟な働き方を誰もが遠慮なく使えるようにしましょう。特に、男性が育児休業を取ることを「特別」と見なすのではなく、「当たり前」の選択肢として受け入れる風土が、職場の可能性を大きく広げます。さらに、未来を担う子どもたちが学ぶ学校。教育現場では、性別による先入観を完全に排除しなくてはなりません。女の子だから理系は難しい、男の子だから泣いてはいけない、といったジェンダー・ステレオタイプを、教科書や先生方の言葉から取り除きましょう。そして、女子生徒にも積極的にリーダーシップの機会や多様な職業の可能性を示し、自らの未来を大きく描く力を育んでほしいのです。行政や地域社会においても、性別の違いを超えた視点が欠かせません。行政のすべての政策（例えば、災害時の避難所の運営や、まちづくり）に、男女双方の視点を最初から組み込む「ジェンダー主流化」という考え方を徹底すべきです。それは、社会の死角をなくし、より安心して豊かな生活を実現することに直結します。男女共同参画は、どちらかの性別が我慢することではありません。それは、社会全体が持っている「隠れた可能性」を解き放つための鍵です。私たちは、無意識の偏見という名の重い扉を、一つひとつ開けていく勇気を持つべきです。誰もが自分らしく生き、互いの違いを認め合える、そんな明るい社会を、私たち自身の行動で創っていきたく強く願います。（男性、30代）

●ジェーンズーさんの講演会を保原町で開催して欲しいです（女性、50代）

- 会社では女性が優遇されるところが増えている。もっと子育てや介護支援を充実させて女性がもっと働きに出れる社会は作るべき。でも何でもかんでも男女平等はまた違うと思う。それぞれの長所短所特性をサポートしてくれる環境が必要だと思います。（男性、60代）
- 私はひとり親です。養育費の基準額から見ても、とても子供を育てられるレベルの金額ではありません。男性たちが考えている仕組みなのだろうと容易に想像できます。女性が1人で仕事をしながら子供を育てると言うことは並大抵のことではありません。児童扶養手当の基準の緩和などが必要なのではないのでしょうか。また、現況届出の際に、交際相手の有無も問われますが、それも何の意図があって聞くのかという根拠をお聞きしたことはありません。親族からの支援や、それ以外の支援の有無も確認した上で、この質問は全く無駄な質問であるような気がします。そして、唐突にこんな質問をされて、女性に対しての配慮のない国の仕組みだと感じます。結局のところ、男性たちが考えているからだろうと思っています。理想だけではなく、実効性を持って、行政の主要なポストに女性を配置していただき、女性の声が生かされた行政運営をしていくことが大事だと思います。（女性、40代）
- 家事や育児は、未だに女性に偏って担われがちです。男女が協力して家事・育児を行えるよう、男性が育児休業を取りやすい環境づくりや、子育てに積極的に関わることが当たり前という意識の定着が必須だと思います。行政には、男女共同参画を推進する政策の立案だけでなく、その実効性を高める為の実態調査、情報公開、啓発活動、当事者の声を政策に反映させる取り組みを行って頂きたいです。（女性、40代）
- 体のづくり(例:男性の方が筋力が多いこと等)による男女間性差に伴う職務内容の偏りはある程度仕方ないものと思います。その上で、行政に期待することとしては、広報による意識啓発等を通じて、男性・女性が共にお互いを思いやることにより、男女共同参画社会づくりを推進していただけたらと思います。そうすることにより、男性は〇〇(例:男性は強くあるべきで、泣くべきではない)や、女性は〇〇(例:女性は家事・育児をするために、早く帰ることができる簡単な事務仕事が向いている)等のジェンダーバイアスが少なくなっていくことを期待しています。（男性、30代）
- パートナーシップファミリーシップ宣誓制度を導入したことはとても良いと思います。広報やSNSでもっと発信して下さい。（女性、40代）
- どうしても家事全般は女性がこなす様な社会であると思います。若い方がたは最近では子育てや家事を率先してしている方も多いと思いますが、私達60代ではまだまだそうはなっていないのが現状です。両親においては、一緒に畑仕事をして終えても母はご飯の支度、洗濯と休む間がなく動きっ放しです。私は子供の頃からその様な家庭でそれが当たり前で育ってきました。私達世代よりも上の方もそうだと思います。いきなり家事の分担と言っても中々難しいのも現状です。ただ、これから先男性が一人になった時の事を考えると自分の為だと思い、少しずつでも家事をする事は大切な事だと思います。我が家ではお互いに過干渉せず、好きな事をしながら家事全般は私、その他家周りの事、地域の事などは男性が担う。というように分担しているつもりですが、女性の方が歩が悪いように感じる事は多いです。やはり後はお互いのコミュニケーションが大切なのではないかと思います。我が家がそれが上手くいっているのか少々疑問ではありますが。（女性、60代）
- 伊達市に引っ越して子育てのしやすさを感じています。屋内遊び場の数が多いこと、無料で参加できるイベントが多いことに感動しています。これからも子育てしやすい環境の維持に力を入れて頂きたいです。（女性、30代）
- 結婚や出産などで一旦仕事を離れることになり、それから何年か経ちます。新たに仕事を始めたい場合、ブランクもあり、年も重ねていく中で、本当にやりたい仕事につけるのかどうか不安があります。夫は管理職なので、子供が2人いますが過去に育児休暇はとれませんでした。まだまだ現実として男女共同参画社会は遠いと感じますが、子ども達のために、少しでもよりよい未来を望みます。（女性、30代）

- 会社では女性の立ち位置が低く扱われている。また女性もそれで良いと思っている様に見受けられる。仕事の内容を女性が見直すと共に会社側も見直し適材適所もさる事であり、女性が活躍できる適している職場を設けていく必要があると思う。(男性、50代)
- 高齢の方の考えが優先されやすく男女差別が行われている。社会的にも世論的にも。男性が政治家になりやすい。家庭でも姑と小姑の力がとても強い。(女性、30代)
- 伊達市の現状がわかった上で、その対応に即した行政の在り方が、老若男女の区別無くわかるようにしてもらえと有り難いです。(女性、60代)
- 家庭生活を営むための家事や育児・介護は、男女関係なくかつどちらかに負担がかかりすぎることがないよう、特に男性側への啓発が必要だと思う。(女性、50代)
- 能力のある女性を男性と女性の双方が嫌います。どんな人にも得意なことがありますから、相手をリスペクトして暮らして行きたいと思います。(女性、60代)
- 男女ともに、声大きいのは「足を知」らない身の程知らず。(男性、40代)
- 近年は、様々な思想や考え方が多岐にわたっており、個人が尊重される社会が醸成されている一方で、「多様性」という汎用性の高い言葉を使えばどんなことも許される傾向もあると感じています。特に性自認や性的指向については、人それぞれの考え方があるのでそれで良いと思いますが、それを相手に押し付けて拒絶されたら人格を否定するのはなんか違うなあと思います。この意見も結局は個人の思想と考え方なので、同じ穴の貉ではあると思いますが……。SNSが拡充されたことにより、より顕著になってきたと思います。(男性、30代)
- 女性の社会活動への参画は、環境はもちろんだが教育によって根付いていくものと考えている。(男性、50代)
- 自分の周辺でもまだまだ片方に偏っている状況が多いと思います(仕事、育児、家事等)。テレビ等報道では意識して表現していると思いますが、たまにおや?と思う時があります。継続した意識啓発が必要だと思います。(男性、50代)
- 地域社会活動(主に町内会活動)に入ると、様々な面において男性主導が多いと感じます。地縁的な繋がりや高齢者層が多いということもあるのですが、時代の流れとともに地域での役割に女性が登用させるような環境が今後進むのかなと思います。地域社会においては前時代的背景が根強いのかなと思います。(男性、40代)
- 世間的には男女平等が謳われているため、一見男女差別がないように感じるが、いまだに個人の中に無意識の差別が根強く存在しており、それが可視化・認識されていないため、子供や若い世代でもその差別が再生産されているように感じる。(子育ての負担がなぜか母親に偏りがちな傾向など)若い世代においては、「平等」について総合的に判断できていない男性が多いように感じる。婚姻後、「男女平等だから家事はきっちり2分の1にしたい」、「男女平等だから生活費は妻も2分の1を出すべき」といった主張をする男性がいるが、産休・育休で女性に収入がないことや、妊娠・出産の負担が女性のほうに一手にかかっている事実を度外視しているため(もしくは認識できておらず)、その分の負担を男性が金銭面や家事負担等でどこかで多く負担すべきなのを認識できておらず、結果的に男女不平等になっていると思う。(女性、30代)
- 男女平等が理想ですが、いろんな面で妻(女性)が主として育児と家事をする傾向であるのかなと思っています。夫も家庭育児に少しでも協力できるようになれる制度等がもっとあったら良いなと思います。(女性、30代)
- 子供が生まれるまえから、家事を協同で行うなど お互いを尊重し合う生活が大事かと思っています。こうした環境で育った子供は自然に男女の区別なく、人間としての思いやりが育っていくと思います。(女性、70代以上)

**男女共同参画に関する市民アンケート
調査報告書**

令和8年3月作成

作成：伊達市未来政策部協働まちづくり課

〒960-0692 伊達市保原町字舟橋 180 番地

TEL：024-575-1177

FAX：024-575-2570

E-mail:kyodou@city.fukushima-date.lg.jp

伊達市ウェブサイト：<https://www.city.fukushima-date.lg.jp/>
